

第 3 編

学校における固定遊具の 現状分析と事故防止対策の実状

第3編 学校における固定遊具事故の現状分析と事故防止対策の実状

第1章 災害共済給付データを活用した固定遊具事故の現状分析

東京工業大学工学院機械系教授 西田 佳史

I はじめに

学校の管理下で、治療費が5千円を超える負傷・疾病は毎年100万件近く起こっており^[1]、JSCには膨大なデータが蓄積されている。しかし、従来の分析では、あらかじめ項目化されたもののクロス集計がほとんどであり、自由記述文で表現された状況进行分析し、介入すべき課題の検討や介入法の開発を行うといった介入のデザインへはほとんどデータは用いられていない。また、疫学や公衆衛生分野では、リスク評価の基本統計量として、リスク比（相対危険度）やオッズ比が用いられてきたが^[2]、自由記述文で表現されている状況そのものをリスク評価の対象とすることに困難があった。

一方、近年、機械学習が状況データの分析にも応用され始めており、データ可視化や予測などの適用例が報告されているが、労働災害分野以外への適用例が少なく、特に、子供や高齢者の傷害データへの適用例が乏しいことが指摘されている^[3]。本章では、テキストマイニングを用いた状況分類と疫学や公衆衛生分野で用いられるリスク比による評価手法を統合した分析方法（状況リスク比分析^[4]）を用いた分析を報告する。詳細な分析結果（12種類の遊具）は、本報告書の資料編に示すが、ここでは、鉄棒、すべり台、砂場の三種の遊具について述べることで、分析方法や資料編に示す図の読み取り方を解説する。

II テキストマイニングを用いた状況データ分析（状況リスク比分析）

疫学の分野でリスク要因の分析をする際の、最も重要な基本統計量にリスク比がある。リスク比とは、要因の暴露に対する反応率の比を表す指標であり、要因がない場合に比べて、要因がある場合にリスクが何倍になるという評価が可能である^[2]。しかし、従来の疫学分野では、リスク要因として、喫煙の有無といった単語で表現できるような要因、もしくは、その組み合わせで表現できる要因しか扱うことができず、本研究で対象とする状況、すなわち、人間と環境との相互作用の結果起こる事故の一連のプロセスが表現されたものを直接、リスク要因として扱うことができない。今回用いた手法の概要を図1に示す。基本的なアイデアは、状況そのものをリスク要因として分析可能とする点にある。まず、状況記述文を、状況の間の類似度計算を可能にするために、分散表現と呼ばれる手法^[5]を用いて高次元ベクトル化する。次に、この高次元ベクトルで表現された距離空間で、類似状況を抽出し、抽

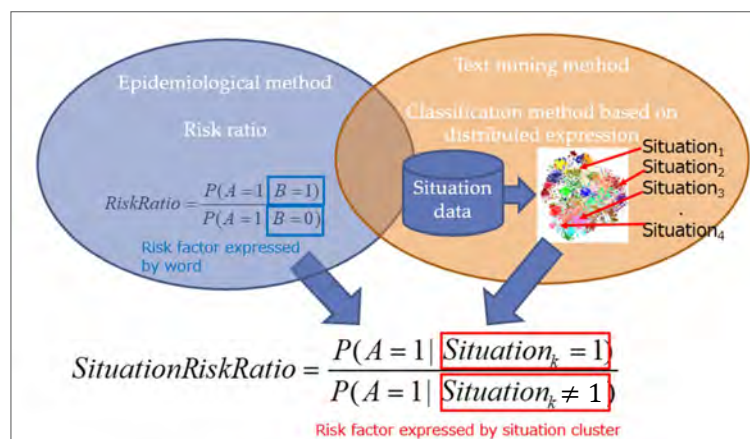


図1 今回用いた状況分析手法の概要

出された類似状況ごとに、リスク比を評価することで重要な状況を抽出した。

Ⅲ 分析結果の例

JSC の災害共済給付制度によって収集された、2018 年度の全国の小学校、幼稚園、幼保連携型認定こども園、保育所等で起きた事故のデータを使用した。対象データは災害共済給付金請求時に集められるデータであり、全国の学校の 97%以上が加入しているため^[1]、ほぼ 悉皆 データとして扱うことが可能なデータであり、世界でも貴重なデータとなっている。5 千円以上の治療費が必要だった事故のみが対象であるというバイアスに留意する必要があるが、ケースがコントロールされていない悉皆データ相当のものであるため、リスク比の計算が可能となる。

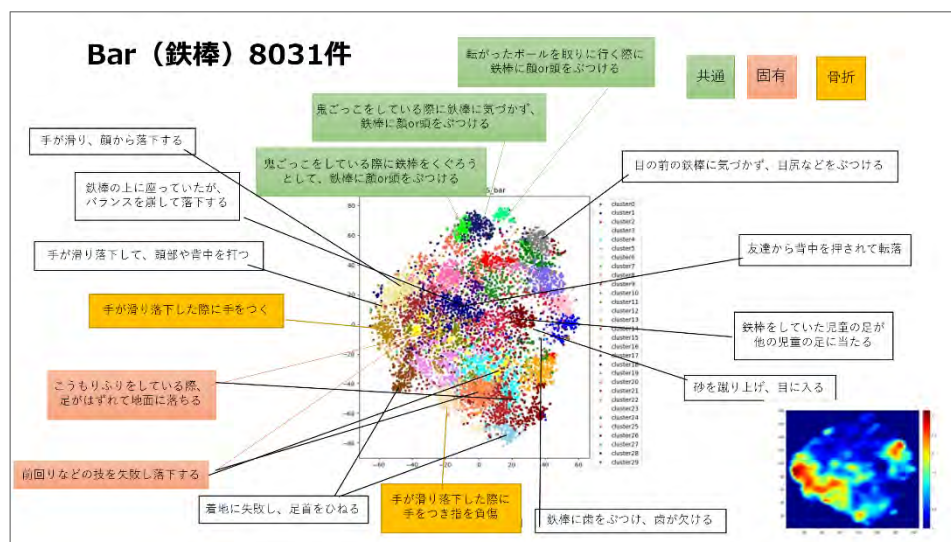


図2 鉄棒に関連した事故状況の分析結果

図2の左に、鉄棒に関連した事故の分類した結果、右に骨折のリスクが高い状況を赤色で示した。各クラスターに分類された事例を確認していくことで図2の左側の周辺部分に示したような典型的な事故発生メカニズムを知ることができる。同様に図3、4にすべり台と砂場の結果を示した。

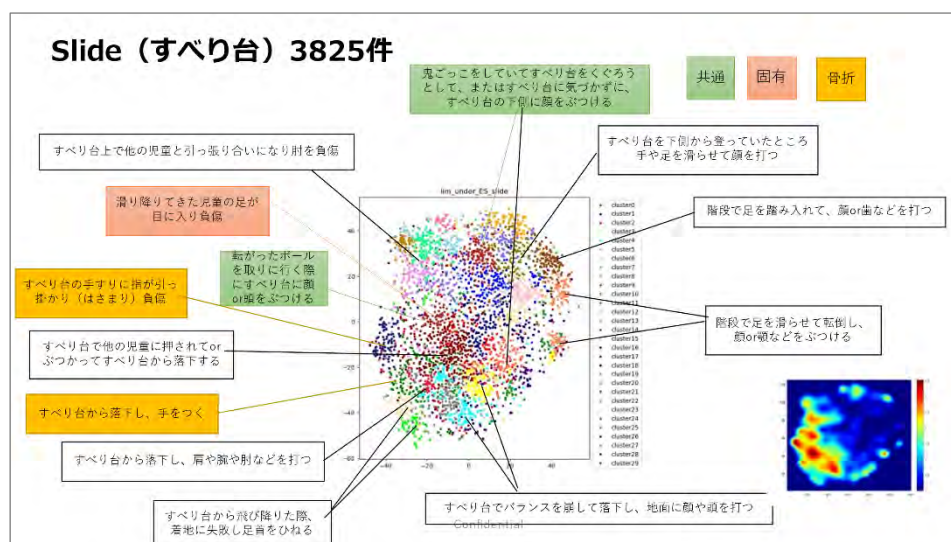
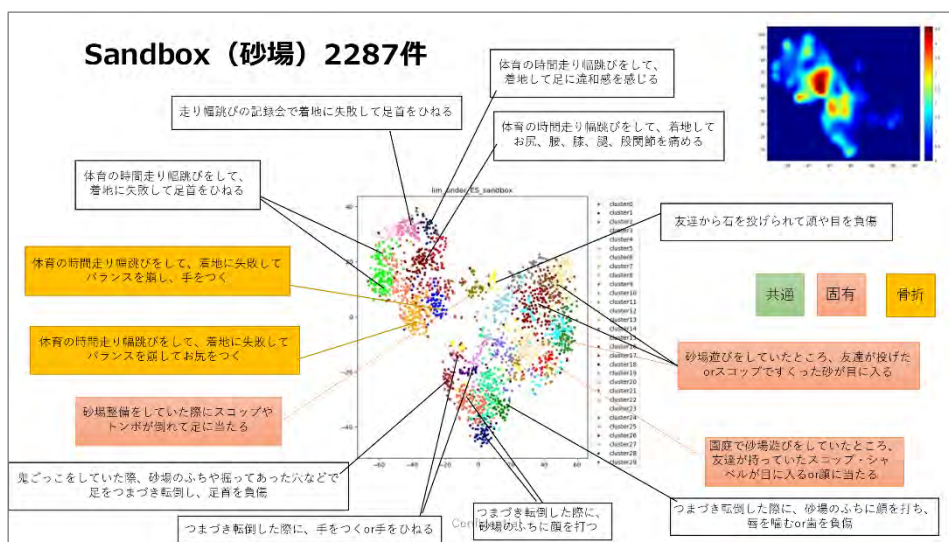


図3 すべり台に関連した事故状況の分析結果



また、今回分析した3種類の遊具の分析から見てきた共通リスク状況、および、遊具固有のリスク状況を図5に示した。今回得られた知見をもとに傷害予防の3E（環境改善、教育・啓発改善、安全基準改善）の観点^[6]から考察が可能である。

鉄棒の環境改善に関しては、設置面の衝撃吸収性能の向上（設置面における砂場やゴムの採用）、休憩時間における鉄棒付近の動線の制御が考えられる。今回の設置面の調査からは、まだ設置面の対策が行われていない学校が多く存在することが明らかとなっており、落下位置が限られている鉄棒などでは大きな効果が見込まれる。また、啓発や安全のためのルール改善に関しては、鉄棒には多種多様な技が存在しており、授業における技習得の段階的プログラムの作成や、落下速度が高い技を実施してよい鉄棒の指定などが考えられる。

すべり台の環境改善については、手すりに指をひっかけて骨折するという事故が多発しているため、指などがひっかかる場所を無くす改善が必要である。またすべり台から転落する事故も多発しているため、すべり台付近の設置面の改善や安全策の設置も考え

られる。

砂場に関しては、幅跳び中の骨折事故が多発しており、砂場で走り幅跳びの練習を始めるのではなく、マットの上で着地の練習をしてから砂場での練習に移るなど段階的なスキル向上のトレーニング法開発が必要である。また、砂場が雨などで固くなり着地の際に足首を捻るという事故也多発しているが、砂場自体は、適切に管理されていれば衝撃吸収性能を持つことが知られており^[7]、走り幅跳びの授業の前に固まっている砂場をほぐすという方法も考えられる。鉄棒、すべり台、砂場の三種以外の遊具については、資料編第3章を参照いただきたい。

参考文献

- [1] 独立行政法人日本スポーツ振興センター，学校の管理下の災害[令和元年版] (2019)
- [2] 鈴木庄亮，シンプル衛生公衆衛生学 2020，南江堂（2020）
- [3] Vallmuur, K., Machine learning approaches to analyzing textual injury surveillance data: A systematic review, *Accident Analysis and Prevention*, 79 (2015), pp. 41-49.
- [4] Ozaki, M., Uchiyama, E., Nishida, Y., “Relative risk among home injury situations,” *Proceedings of the 8th UKJEEL Workshop “Engineering & Data Science”* (2021)
- [5] 坪井祐太，海野裕也，鈴木潤，深層学習による自然言語処理，講談社（2017）
- [6] Peden, M., Oyegbite, K., Ozanne-Smith, J., Hyder, A.A., Branche, C., Rahman, AKM.F., Rivara, F. and Bartolomeos, K., *World report on child injury prevention*, World Health Organization (2008)
- [7] Howard, A.W., Macarthur, C., Willan, A. and Macpherson, A.K., School playground surfacing and arm fractures in children: a cluster randomized trial comparing sand to wood chip surfaces, *PLOS medicine*, Vol. 6, No. 12 (2009)

第2章 固定遊具の設置状況調査と事故防止対策の取組

I 設置状況調査

学校・園における固定遊具の設置状況の実態を明らかにし、設置数を基準とした事故率により各遊具の事故の発生頻度を把握するため設置状況調査を行った。

1 調査概要

(1) 調査の実施概要

【調査対象】

災害共済給付制度に加入している、全ての小学校（義務教育学校前期課程、特別支援小学部含む）、幼稚園（特別支援支援学校幼稚部含む）、幼保連携型認定こども園及び保育所等

【調査期間】

令和2年9月1日（火）～令和2年10月2日（金）

【調査方法】

調査対象学校の設置者に「学校安全ナビ第40号、特別号、令和2年学校安全・災害共済給付ガイド」の送付と併せて、調査票の送付を依頼し、学校等が直接JSCにWEBで回答（Web回答が難しい場合はFAXで回答）した。

【調査内容】

各固定遊具について設置状況の有無、設置面の安全対策の有無（図2参照）

(2) 回答数・回答率

	対象数 (A)	回答数 (B)	回答率 (B/A)	有効回答 数 (C)	有効回答 率 (C/A)
小学校	20,613	8,323	40.4%	8,094	39.3%
幼稚園	8,384	2,738	32.7%	2,570	30.7%
幼保連携型認定こども 園・保育所等	30,653	9,173	29.9%	8,463	27.6%
計	59,650	20,234	33.9%	19,127	32.1%

(3) 校庭・園庭の有無別回答数・回答率

	校庭（園庭）有（%）	校庭（園庭）無（%）
小学校	7,987（98.7%）	107（1.3%）
幼稚園	2,559（99.6%）	11（0.4%）
幼保連携型認定こども 園・保育所等	7,697（90.9%）	766（9.1%）
計	18,243（95.4%）	884（4.6%）

(4) 都市規模別回答数・回答率

	大都市 ※ (%)	市 ※ (%)	町・村 ※ (%)
小学校	1,447 (17.9%)	5,476 (67.6%)	1,171 (14.5%)
幼稚園	603 (23.5%)	1,719 (66.9%)	248 (9.6%)
幼保連携型認定こども園・保育所等	2,022 (23.9%)	5,598 (66.1%)	843 (10.0%)
計	4,072 (21.3%)	12,793 (66.9%)	2,262 (66.9%)

※大都市 … 東京 23 区と指定都市、市 … 「大都市」を除く市、町・村 … 町及び村

(5) 用語の定義

- ・設置数 … 遊具設置有の数
- ・設置率 … 有効回答数に対する遊具設置有の割合
- ・設置面の安全対策率 … 設置数に対する設置面の安全対策有の割合

(6) 推定設置数及び事故率の算出

設置数については、調査対象数の全数が回答したと仮定し、学校種ごとに推定設置数を算定した。また推定設置数をもとに事故率を算出した。

【推定設置数の算出式】

推定設置数＝調査対象数÷有効回答数×実数、小数点以下四捨五入。

小学校 … 調査対象数÷有効回答数≒2.55	]
幼稚園 … 調査対象数÷有効回答数≒3.26	
幼保連携型認定こども園・保育所等 … 調査対象数÷有効回答数≒3.62	

【事故率の算出式】

事故率＝平成 30 年度給付件数（医療費）÷推定設置数

上記の算出式より、事故率とは、設置数 1 に対する 1 年間の事故の件数、つまり遊具を設置している学校において 1 年間に 1 件事故が起きる確率を示す。

日ス振学支第29号
令和2年9月1日

各小学校長
各幼稚園長
各幼保連携型認定こども園長 殿
各保育所等の長

独立行政法人日本スポーツ振興センター
学校安全部長 朝 倉 博 美
(公 印 省 略)

「学校における固定遊具による事故防止対策」調査研究事業実施に伴う
各学校（園）における固定遊具の設置状況調査への御協力について（依頼）

日頃から、独立行政法人日本スポーツ振興センター（以下「JSC」という。）が行う災害共済給付業務及び安全支援業務への御理解、御協力、誠にありがとうございます。

さて、JSCでは、外部有識者による「学校災害防止調査研究委員会」を設け、災害共済給付業務の実施によって得られた災害事故情報を活用して、重大事故に繋がる要因分析等を行い、その結果を踏まえた事故防止の留意点を検討し、その成果を学校関係者等に分かりやすく提供することにより、学校における事故防止のための取組を支援することとしています。

令和2年度は、調査研究課題を「学校における固定遊具による事故防止対策」と設定し調査研究を行っているところですが、遊具事故の分析を行うに当たり、小学校、幼稚園、幼保連携型認定こども園及び保育所等における固定遊具の設置状況を把握する必要があるため、貴校（園）の固定遊具設置状況調査に御協力いただきますようお願いいたします。

なお、本調査は貴校（園）の教職員どなたにご回答いただいても構いませんが、各学校につき回答は一回でお願いします。また、本調査については、Web上で実施させていただきたいため、下のQRコードを読み取り、調査用ページにアクセスの上、10月2日（金）までに御回答いただきますようお願いいたします。（Webでの回答が難しい場合は、裏面の調査票に必要事項を記入の上、各遊具の設置の有無等に○をつけ、裏面上部に記載の送信先までFAXを送信ください。）

また、本委員会では、令和3年3月までに調査研究報告書を取りまとめ、JSCホームページ「学校安全Web」上で公表するとともに、令和3年度以降に、調査研究報告書を配布させていただきます予定です。

本調査研究事業への御理解、御協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



← Web 調査ページへは、
QRコードからアクセス
ください。
(Microsoft Forms ページに遷移します。)

＜本件に関する連絡先＞

担 当：学校安全部安全支援課
電 話：03-5410-9154
FAX：03-5410-9167
E-mail：anzenjoho@jpnspport.go.jp

図1 「学校における固定遊具による事故防止対策」調査研究事業実施に伴う各学校（園）における固定遊具の設置状況調査への御協力について（依頼）

【調査対象】

小学校、幼稚園、幼保連携型認定こども園、保育所等

FAX 送信先：03-5410-9167

固定遊具の設置状況調査票

(Web での回答が難しい学校等用)

以下の固定遊具が貴校（園）の校庭（園庭）に設置されているか、調査を行います。なお、本調査における固定遊具とは、校庭（園庭）の設置面に固定されているものを指します。体育館等屋内に設置されているもの、仮設のもの及び可動式のものを含みません。

については、下表の遊具設置の「有」「無」についていずれかに○を、また、設置「有」の場合は、遊具設置面の安全対策の「有」「無」についていずれかに○をつけ、上記送信先までFAXを送信いただきますよう、よろしくお願いします。

なお、貴校（園）に校庭（園庭）がない場合は、以下のチェックボックスに☑をつけた上で、代替遊技場とされている公園等の遊具の設置状況についてお答えください。

☐ ← 貴校（園）に校庭（園庭）がない場合はチェックを入れてご回答ください。

遊 具 名	遊 具 設 置 の 有 無				備 考
			設置「有」の場合 遊具設置面の安全対策 [※] の有無		
鉄 棒	有	無	有	無	
ぶらんこ	有	無	有	無	タイヤぶらんこ（全方向ぶらんこ）、箱ぶらんこを含みます。
シーソー	有	無	有	無	ぶら下がり式シーソーを含みます。
回旋塔	有	無	有	無	回転ジャングルジムを含みます。
すべり台	有	無	有	無	常設された避難用すべり台を含みます。
ジャングルジム	有	無	有	無	太鼓はしこ（アーチクライマー）を含みます。
雲てい	有	無	有	無	太鼓はしこは「ジャングルジム」に計上します。
登り棒	有	無	有	無	はん登棒ともいいます。
遊動円木	有	無	有	無	シーソーぶらんこを含みます。
固定タイヤ	有	無	有	無	タイヤぶらんこは「ぶらんこ」に計上します。
砂 場	有	無			幅跳び用の砂場を含みます。
総合遊具・ アスレチック	有	無	有	無	

※ 「遊具設置面の安全対策」とは、児童等の転落・落下に備え、設置面に、砂、ゴムマット、人工芝等の衝撃吸収性能を有する素材の敷設等の対策をしていることを言います。

10月2日（金）までに御回答いただきますようお願いいたします。

都道府県名 _____ 都 道 府 県 _____ 市区町村名 _____ 市 区 町 村



← Web 調査ページ QR コード
Web での回答にご協力をお願いします。

学校（園）名 _____

図 2 固定遊具の設置状況調査票

2 調査結果

(1) 総括

- ・ 学校種や都市規模の違いにより、固定遊具の設置率に違いが見られた。
- ・ 設置率について学校種別に見ると、設置率が高い順に小学校、幼稚園、幼保連携型認定こども園・保育所等となった。
- ・ 設置面の安全対策率について学校種別に見ると、幼稚園や幼保連携型認定こども園・保育所等の方が小学校より設置面の安全対策率が高い。
- ・ 小学校及び幼稚園においては、都市規模の違いにより設置率が大きく異なる遊具がある。一方で、幼保連携型認定こども園、保育所等においては、どの遊具においても町・村、市、大都市の順で遊具の設置率が高い。

次ページから、固定遊具の設置状況について、学校種ごとに校庭の有無別及び都市規模別にまとめた。また、推定設置数及び事故率について、学校種別ごとにまとめた。

（２）小学校の設置状況

- ・合計で各遊具を比較すると、鉄棒、砂場、雲てい、ぶらんこ、ジャングルジム、登り棒の順で設置率が高く、上記遊具は全体の 70%以上の学校に設置されている。一方で、回旋塔、遊動円木の設置率は 3%未満であった。
- ・どの遊具においても約半数が設置面の安全対策を行っており、校庭の有無別にみても設置面の安全対策率は概ね同じ傾向である。
- ・都市規模別に見ると、総合遊具・アスレティックは大都市における設置率が高い。また、ぶらんこ、シーソー、すべり台、固定タイヤは、大都市よりも、市や町・村の方が、設置率が高い。
- ・設置面の安全対策率は、都市規模の違いにより全遊具に共通する差異は見られない。

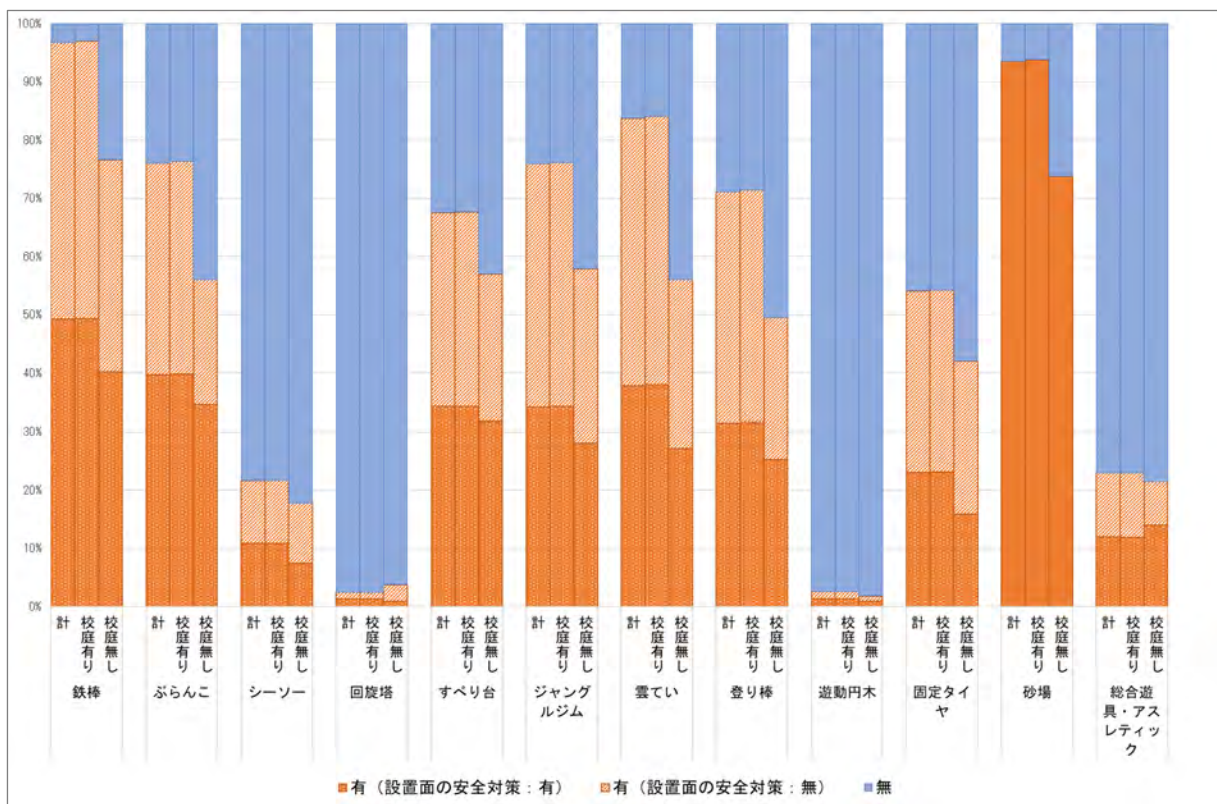


図３ 校庭の有無別固定遊具の設置状況（小学校）

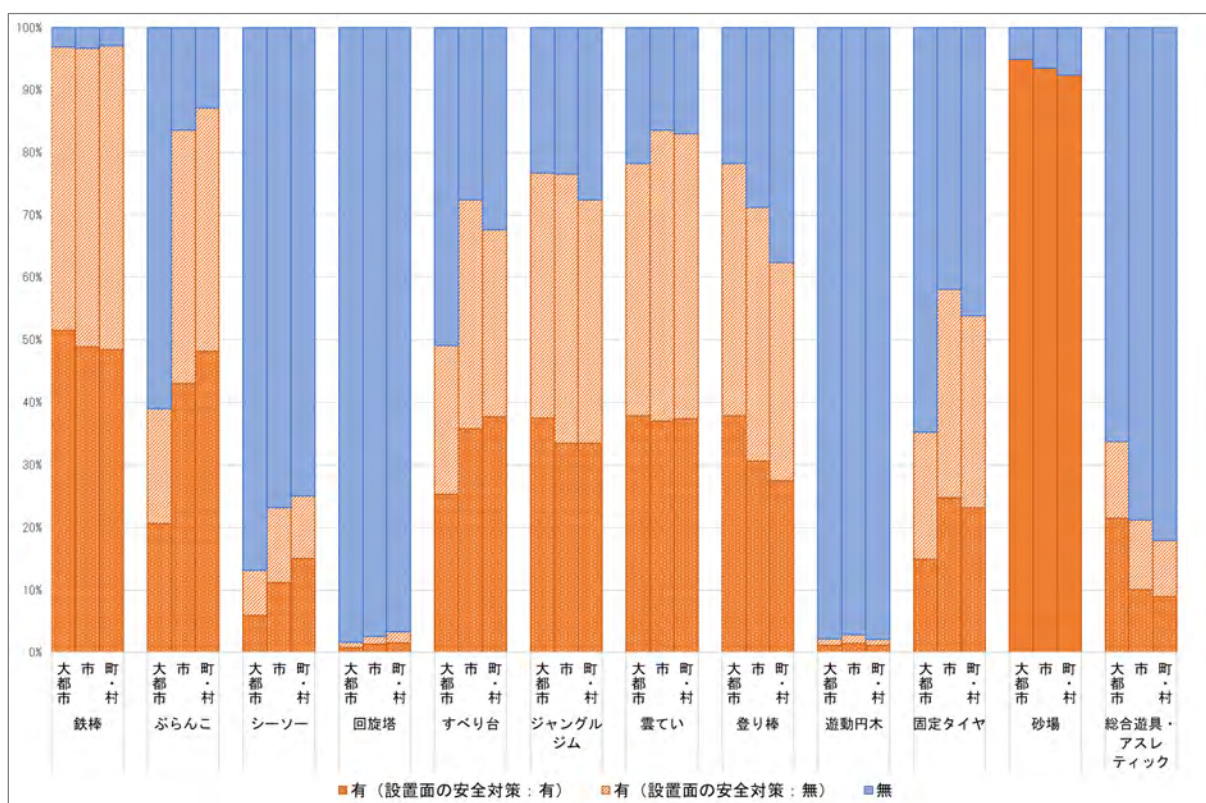


図4 都市規模別固定遊具の設置状況（小学校）

表1 推定設置数及び事故率（小学校／全体）

（校）

設置	有			無	総計	事故率
設置面の安全対策	有	無	計			
鉄棒	10,154	9,790	19,943	670	20,613	32.8%
ぶらんこ	8,190	7,492	15,683	4,930	20,613	14.1%
シーソー	2,233	2,233	4,467	16,146	20,613	7.2%
回旋塔	265	252	517	20,096	20,613	6.6%
すべり台	7,059	6,866	13,925	6,688	20,613	13.3%
ジャングルジム	7,049	8,605	15,655	4,958	20,613	12.5%
雲てい	7,803	9,458	17,262	3,351	20,613	16.8%
登り棒	6,494	8,175	14,669	5,944	20,613	5.1%
遊動円木	275	265	540	20,073	20,613	5.0%
固定タイヤ	4,755	6,400	11,155	9,458	20,613	12.4%
砂場			19,286	1,327	20,613	5.3%
総合遊具・アスレティック	2,460	2,282	4,742	15,871	20,613	37.8%

表2 校庭の有無別固定遊具の設置状況（小学校）

全体	(校)				(校)				(校)			
	設置	有		無	設置	有		無	設置	有		無
		有	無			有	無			有	無	
設置面の安全対策	設置面の安全対策			総計	設置面の安全対策			総計	設置面の安全対策			総計
鉄棒	鉄棒	3,987	3,844	7,831	鉄棒	3,944	3,805	7,749	鉄棒	43	39	82
		50.9%	49.1%	96.8%		50.9%	49.1%	97.0%		52.4%	47.6%	76.6%
ぶらんこ	ぶらんこ	3,216	2,942	6,158	ぶらんこ	3,179	2,919	6,098	ぶらんこ	37	23	60
		52.2%	47.8%	76.1%		52.1%	47.9%	76.3%		61.7%	38.3%	56.1%
シーソー	シーソー	877	877	1,754	シーソー	869	866	1,735	シーソー	8	11	19
		50.0%	50.0%	21.7%		50.1%	49.9%	21.7%		42.1%	57.9%	17.8%
回旋塔	回旋塔	104	99	203	回旋塔	103	96	199	回旋塔	1	3	4
		51.2%	48.8%	2.5%		51.8%	48.2%	2.5%		25.0%	75.0%	3.7%
すべり台	すべり台	2,772	2,696	5,468	すべり台	2,738	2,669	5,407	すべり台	34	27	61
		50.7%	49.3%	67.6%		50.6%	49.4%	67.7%		55.7%	44.3%	57.0%
ジャングルジム	ジャングルジム	2,768	3,379	6,147	ジャングルジム	2,738	3,347	6,085	ジャングルジム	30	32	62
		45.0%	55.0%	75.9%		45.0%	55.0%	76.2%		48.4%	51.6%	57.9%
雲てい	雲てい	3,064	3,714	6,778	雲てい	3,035	3,683	6,718	雲てい	29	31	60
		45.2%	54.8%	83.7%		45.2%	54.8%	84.1%		48.3%	51.7%	56.1%
登り棒	登り棒	2,550	3,210	5,760	登り棒	2,523	3,184	5,707	登り棒	27	26	53
		44.3%	55.7%	71.2%		44.2%	55.8%	71.5%		50.9%	49.1%	49.5%
遊動円木	遊動円木	108	104	212	遊動円木	107	103	210	遊動円木	1	1	2
		50.9%	49.1%	2.6%		51.0%	49.0%	2.6%		50.0%	50.0%	1.9%
固定タイヤ	固定タイヤ	1,867	2,513	4,380	固定タイヤ	1,850	2,485	4,335	固定タイヤ	17	28	45
		42.6%	57.4%	54.1%		42.7%	57.3%	54.3%		37.8%	62.2%	42.1%
砂場	砂場			7,573	砂場			7,494	砂場			79
				93.6%				93.8%				73.8%
総合遊具・アスレティック	総合遊具・アスレティック	966	896	1,862	総合遊具・アスレティック	951	888	1,839	総合遊具・アスレティック	15	8	23
		51.9%	48.1%	23.0%		51.7%	48.3%	23.0%		65.2%	34.8%	21.5%

表3 都市規模別固定遊具の設置状況（小学校）

大都市	設置 設置面の 安全対策	(校)			総計
		有		無	
		有	無	計	
鉄棒		745	657	1,402	45
		53.1%	46.9%	96.9%	3.1%
ぶらんこ		299	265	564	883
		53.0%	47.0%	39.0%	61.0%
シーソー		86	105	191	1,256
		45.0%	55.0%	13.2%	86.8%
回旋塔		12	12	24	1,423
		50.0%	50.0%	1.7%	98.3%
すべり台		367	343	710	737
		51.7%	48.3%	49.1%	50.9%
ジャングルジム		542	568	1,110	337
		48.8%	51.2%	76.7%	23.3%
雲てい		547	585	1,132	315
		48.3%	51.7%	78.2%	21.8%
登り棒		547	585	1,132	315
		48.3%	51.7%	78.2%	21.8%
遊動円木		17	14	31	1,416
		54.8%	45.2%	2.1%	97.9%
固定タイヤ		216	295	511	936
		42.3%	57.7%	35.3%	64.7%
砂場				1,373	74
				94.9%	5.1%
総合遊具・ アスレティック		311	178	489	958
		63.6%	36.4%	33.8%	66.2%

市	設置 設置面の 安全対策	(校)			総計
		有		無	
		有	無	計	
鉄棒		2,675	2,617	5,292	184
		50.5%	49.5%	96.6%	3.4%
ぶらんこ		2,353	2,221	4,574	902
		51.4%	48.6%	83.5%	16.5%
シーソー		615	655	1,270	4,206
		48.4%	51.6%	23.2%	76.8%
回旋塔		74	66	140	5,336
		52.9%	47.1%	2.6%	97.4%
すべり台		1,964	2,002	3,966	1,510
		49.5%	50.5%	72.4%	27.6%
ジャングルジム		1,834	2,355	4,189	1,287
		43.8%	56.2%	76.5%	23.5%
雲てい		2,025	2,549	4,574	902
		44.3%	55.7%	83.5%	16.5%
登り棒		1,681	2,217	3,898	1,578
		43.1%	56.9%	71.2%	28.8%
遊動円木		77	80	157	5,319
		49.0%	51.0%	2.9%	97.1%
固定タイヤ		1,380	1,858	3,238	2,338
		42.6%	57.4%	58.1%	41.9%
砂場				5,118	358
				93.5%	6.5%
総合遊具・ アスレティック		550	613	1,163	4,313
		47.3%	52.7%	21.2%	78.8%

町・村	設置 設置面の 安全対策	(校)			総計
		有		無	
		有	無	計	
鉄棒		567	570	1,137	34
		49.9%	50.1%	97.1%	2.9%
ぶらんこ		564	456	1,020	151
		55.3%	44.7%	87.1%	12.9%
シーソー		176	117	293	878
		60.1%	39.9%	25.0%	75.0%
回旋塔		18	21	39	1,132
		46.2%	53.8%	3.3%	96.7%
すべり台		441	351	792	379
		55.7%	44.3%	67.6%	32.4%
ジャングルジム		392	456	848	323
		46.2%	53.8%	72.4%	27.6%
雲てい		437	535	972	199
		45.0%	55.0%	83.0%	17.0%
登り棒		322	408	730	441
		44.1%	55.9%	62.3%	37.7%
遊動円木		14	10	24	1,147
		58.3%	41.7%	2.0%	98.0%
固定タイヤ		271	360	631	540
		42.9%	57.1%	53.9%	46.1%
砂場				1,082	89
				92.4%	7.6%
総合遊具・ アスレティック		105	105	210	961
		50.0%	50.0%	17.9%	82.1%

(3) 幼稚園の設置状況

- ・合計で各遊具を比較すると、砂場、鉄棒、すべり台、ぶらんこの順で設置率が高く、上記遊具は全体の70%以上の学校に設置されている。
- ・小学校と比較し、総合遊具・アスレティックの設置率が高い。
- ・多くの遊具において、設置面の安全対策率が70%以上を超えている。また、どの遊具も設置面の安全対策率は50%を超えている。
- ・都市規模別に見るとまた、大都市のぶらんこの設置率が市や町・村に比べて20%以上低い。
- ・設置面の安全対策率は、一部例外もあるが、大都市、市、町・村の順で高い。

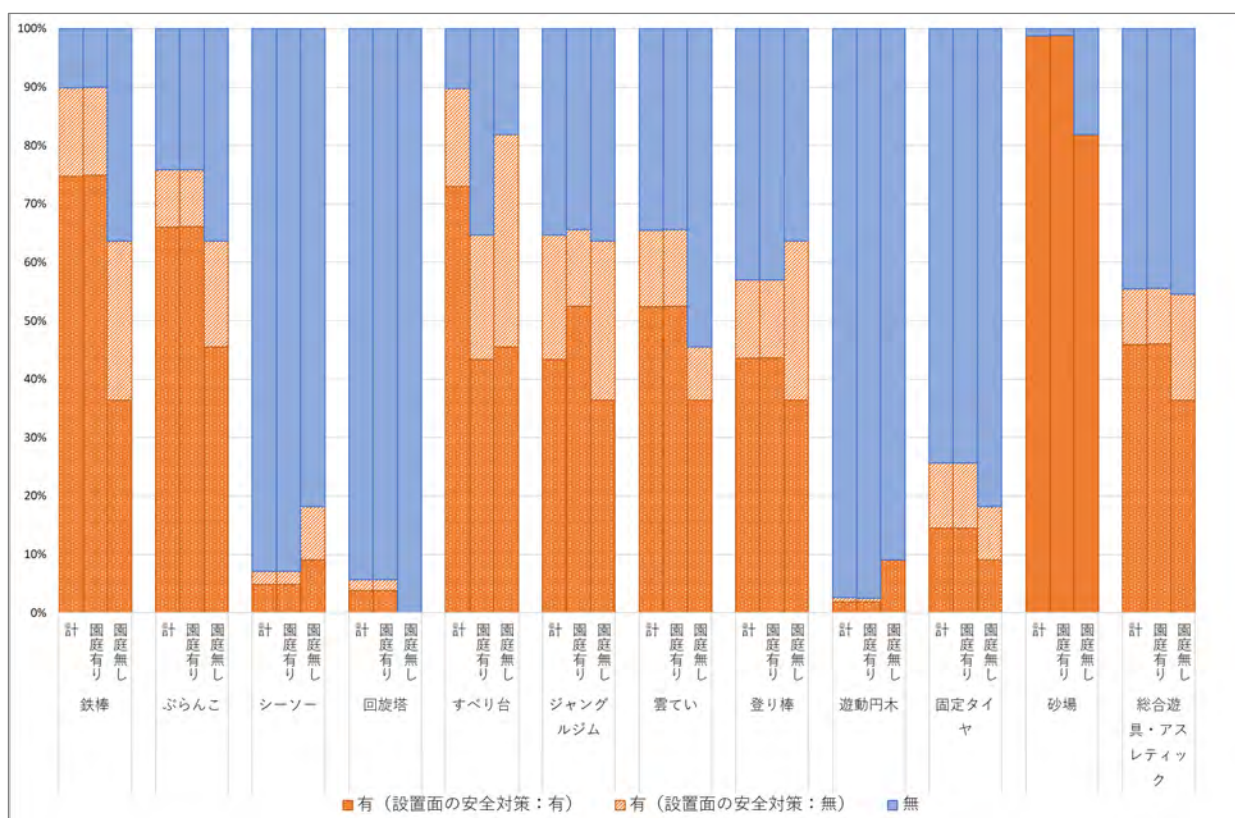


図5 園庭の有無別別固定遊具の設置状況（幼稚園）

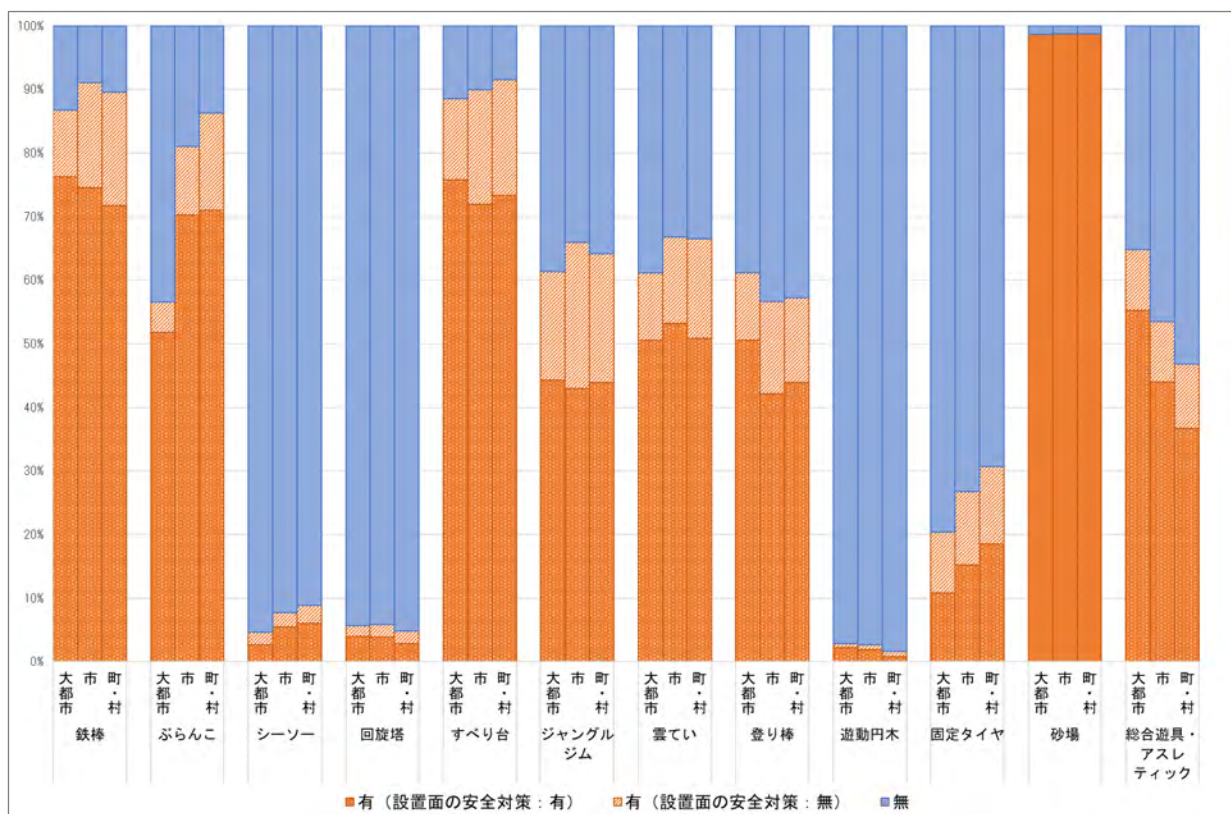


図6 都市規模別固定遊具の設置状況（幼稚園）

表4 推定設置数及び事故率（幼稚園／全体）

（校）

設置	有			無	総計	事故率
設置面の安全対策	有	無	計			
鉄棒	6,264	1,272	7,536	848	8,384	6.6%
ぶらんこ	5,530	825	6,355	2,029	8,384	3.8%
シーソー	408	189	597	7,787	8,384	2.2%
回旋塔	320	157	476	7,908	8,384	1.9%
すべり台	6,120	1,406	7,526	858	8,384	8.6%
ジャングルジム	3,634	1,788	5,422	2,962	8,384	4.3%
雲てい	4,391	1,096	5,487	2,897	8,384	8.2%
登り棒	3,654	1,122	4,776	3,608	8,384	1.7%
遊動円木	157	59	215	8,169	8,384	3.3%
固定タイヤ	1,214	936	2,150	6,234	8,384	1.9%
砂場			8,280	104	8,384	3.7%
総合遊具・アスレティック	3,853	799	4,652	3,732	8,384	14.1%

表5 園庭の有無別固定遊具の設置状況（幼稚園）

全体	(校)					(校)					(校)				
	設置 設置面の 安全対策	有			無	設置 設置面の 安全対策	有			無	設置 設置面の 安全対策	有			無
		有	無	計			有	無	計			有	無	計	
全体	鉄棒	1,920	390	2,310	260	鉄棒	1,916	387	2,303	256	鉄棒	1,916	387	2,303	256
		83.1%	16.9%	89.9%	10.1%		83.2%	16.8%	90.0%	10.0%		83.2%	16.8%	90.0%	10.0%
	ぶらんこ	1,695	253	1,948	622	ぶらんこ	1,690	251	1,941	618	ぶらんこ	1,690	251	1,941	618
		87.0%	13.0%	75.8%	24.2%		87.1%	12.9%	75.8%	24.2%		87.1%	12.9%	75.8%	24.2%
	シーソー	125	58	183	2,387	シーソー	124	57	181	2,378	シーソー	124	57	181	2,378
		68.3%	31.7%	7.1%	92.9%		68.5%	31.5%	7.1%	92.9%		68.5%	31.5%	7.1%	92.9%
	回旋塔	98	48	146	2,424	回旋塔	98	48	146	2,413	回旋塔	98	48	146	2,413
		67.1%	32.9%	5.7%	94.3%		67.1%	32.9%	5.7%	94.3%		67.1%	32.9%	5.7%	94.3%
	すべり台	1,876	431	2,307	263	すべり台	1,110	545	1,655	904	すべり台	1,110	545	1,655	904
		81.3%	18.7%	89.8%	10.2%		67.1%	32.9%	64.7%	35.3%		67.1%	32.9%	64.7%	35.3%
	ジャングルジム	1,114	548	1,662	908	ジャングルジム	1,342	335	1,677	882	ジャングルジム	1,342	335	1,677	882
		67.0%	33.0%	64.7%	35.3%		80.0%	20.0%	65.5%	34.5%		80.0%	20.0%	65.5%	34.5%
全体	雲てい	1,346	336	1,682	888	雲てい	1,342	335	1,677	882	雲てい	1,342	335	1,677	882
		80.0%	20.0%	65.4%	34.6%		80.0%	20.0%	65.5%	34.5%		80.0%	20.0%	65.5%	34.5%
	登り棒	1,120	344	1,464	1,106	登り棒	1,116	341	1,457	1,102	登り棒	1,116	341	1,457	1,102
		76.5%	23.5%	57.0%	43.0%		76.6%	23.4%	56.9%	43.1%		76.6%	23.4%	56.9%	43.1%
	遊動円木	48	18	66	2,504	遊動円木	47	18	65	2,494	遊動円木	47	18	65	2,494
		72.7%	27.3%	2.6%	97.4%		72.3%	27.7%	2.5%	97.5%		72.3%	27.7%	2.5%	97.5%
	固定タイヤ	372	287	659	1,911	固定タイヤ	371	286	657	1,902	固定タイヤ	371	286	657	1,902
		56.4%	43.6%	25.6%	74.4%		56.5%	43.5%	25.7%	74.3%		56.5%	43.5%	25.7%	74.3%
	砂場				32	砂場				30	砂場				30
					1.2%					1.2%					1.2%
	総合遊具・ アスレティック	1,181	245	1,426	1,144	総合遊具・ アスレティック	1,177	243	1,420	1,139	総合遊具・ アスレティック	1,177	243	1,420	1,139
		82.8%	17.2%	55.5%	44.5%		82.9%	17.1%	55.5%	44.5%		82.9%	17.1%	55.5%	44.5%

校庭無し					(校)				
設置	有			無	総計				
設置面の 安全対策	有	無	計						
鉄棒	4	3	7	4	11				
	57.1%	42.9%	63.6%	36.4%					
	5	2	7	4	11				
ぶらんこ	71.4%	28.6%	63.6%	36.4%					
	1	1	2	9	11				
	50.0%	50.0%	18.2%	81.8%					
回旋塔	0	0	0	11	11				
			0.0%	100.0%					
	5	4	9	2	11				
すべり台	55.6%	44.4%	81.8%	18.2%					
	4	3	7	4	11				
	57.1%	42.9%	63.6%	36.4%					
ジャングルジム	4	1	5	6	11				
	80.0%	20.0%	45.5%	54.5%					
	4	3	7	4	11				
雲てい	57.1%	42.9%	63.6%	36.4%					
	1	0	1	10	11				
	100.0%	0.0%	9.1%	90.9%					
遊動円木	1	1	2	9	11				
	50.0%	50.0%	18.2%	81.8%					
			9	2	11				
砂場			81.8%	18.2%					
	4	2	6	5	11				
	66.7%	33.3%	54.5%	45.5%					
総合遊具・ アスレティック									

表6 都市規模別固定遊具の設置状況（幼稚園）

大都市				市				町・村			
設置 設置面の 安全対策	有			設置 設置面の 安全対策	有			設置 設置面の 安全対策	有		
	有	無	計		有	無	計		有	無	計
(校)				(校)				(校)			
総計				総計				総計			
鉄棒	460	63	523	鉄棒	1,282	283	1,565	鉄棒	178	44	222
	88.0%	12.0%	86.7%		81.9%	18.1%	91.0%		80.2%	19.8%	89.5%
ぶらんこ	312	29	341	ぶらんこ	1,207	186	1,393	ぶらんこ	176	38	214
	91.5%	8.5%	56.6%		86.6%	13.4%	81.0%		82.2%	17.8%	86.3%
シーソー	16	12	28	シーソー	94	39	133	シーソー	15	7	22
	57.1%	42.9%	4.6%		70.7%	29.3%	7.7%		68.2%	31.8%	8.9%
回旋塔	24	10	34	回旋塔	67	33	100	回旋塔	7	5	12
	70.6%	29.4%	5.6%		67.0%	33.0%	5.8%		58.3%	41.7%	4.8%
すべり台	457	77	534	すべり台	1,237	309	1,546	すべり台	182	45	227
	85.6%	14.4%	88.6%		80.0%	20.0%	89.9%		80.2%	19.8%	91.5%
ジャングルジム	267	103	370	ジャングルジム	738	395	1,133	ジャングルジム	109	50	159
	72.2%	27.8%	61.4%		65.1%	34.9%	65.9%		68.6%	31.4%	64.1%
雲てい	305	64	369	雲てい	915	233	1,148	雲てい	126	39	165
	82.7%	17.3%	61.2%		79.7%	20.3%	66.8%		76.4%	23.6%	66.5%
登り棒	287	61	348	登り棒	724	250	974	登り棒	109	33	142
	82.5%	17.5%	57.7%		74.3%	25.7%	56.7%		76.8%	23.2%	57.3%
遊動円木	13	4	17	遊動円木	33	12	45	遊動円木	2	2	4
	76.5%	23.5%	2.8%		73.3%	26.7%	2.6%		50.0%	50.0%	1.6%
固定タイヤ	65	58	123	固定タイヤ	261	199	460	固定タイヤ	46	30	76
	52.8%	47.2%	20.4%		56.7%	43.3%	26.8%		60.5%	39.5%	30.6%
砂場				砂場				砂場			
総合遊具・ アスレティック	333	58	391	総合遊具・ アスレティック	757	162	919	総合遊具・ アスレティック	91	25	116
	85.2%	14.8%	64.8%		82.4%	17.6%	53.5%		78.4%	21.6%	46.8%

（４）幼保連携型認定こども園・保育所等の設置状況

- ・合計で各遊具を比較すると、砂場、すべり台、鉄棒の順で設置率が高く、上記遊具は全体の70%以上の設置率である。一方で、他の遊具は設置率が50%未満である。
- ・小学校と比較し、総合遊具・アスレティックの設置率が高い。
- ・多くの遊具において、設置面の安全対策率が70%以上を超えている。また、どの遊具も設置面の安全対策率は50%を超えている。
- ・どの遊具においても、町・村、市、大都市の順で遊具の設置率が高い。
- ・設置面の安全対策率においては、鉄棒、ジャングルジム、雲ていは大都市の方が市、町・村と比べ割合が高い。一方で、シーソー、回旋塔については、町・村の方が、大都市、市と比べ割合が高い。

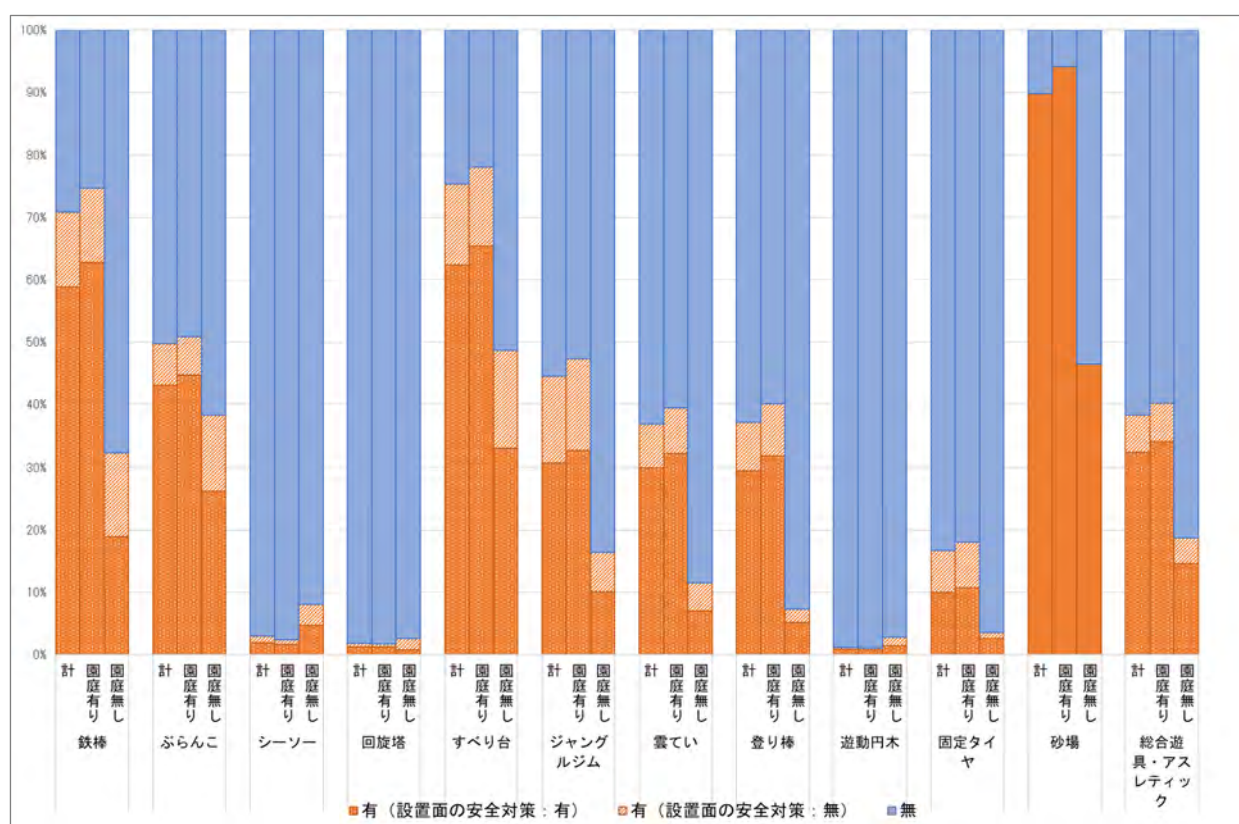


図7 園庭の有無別固定遊具の設置状況（幼保連携型認定こども園・保育所等）

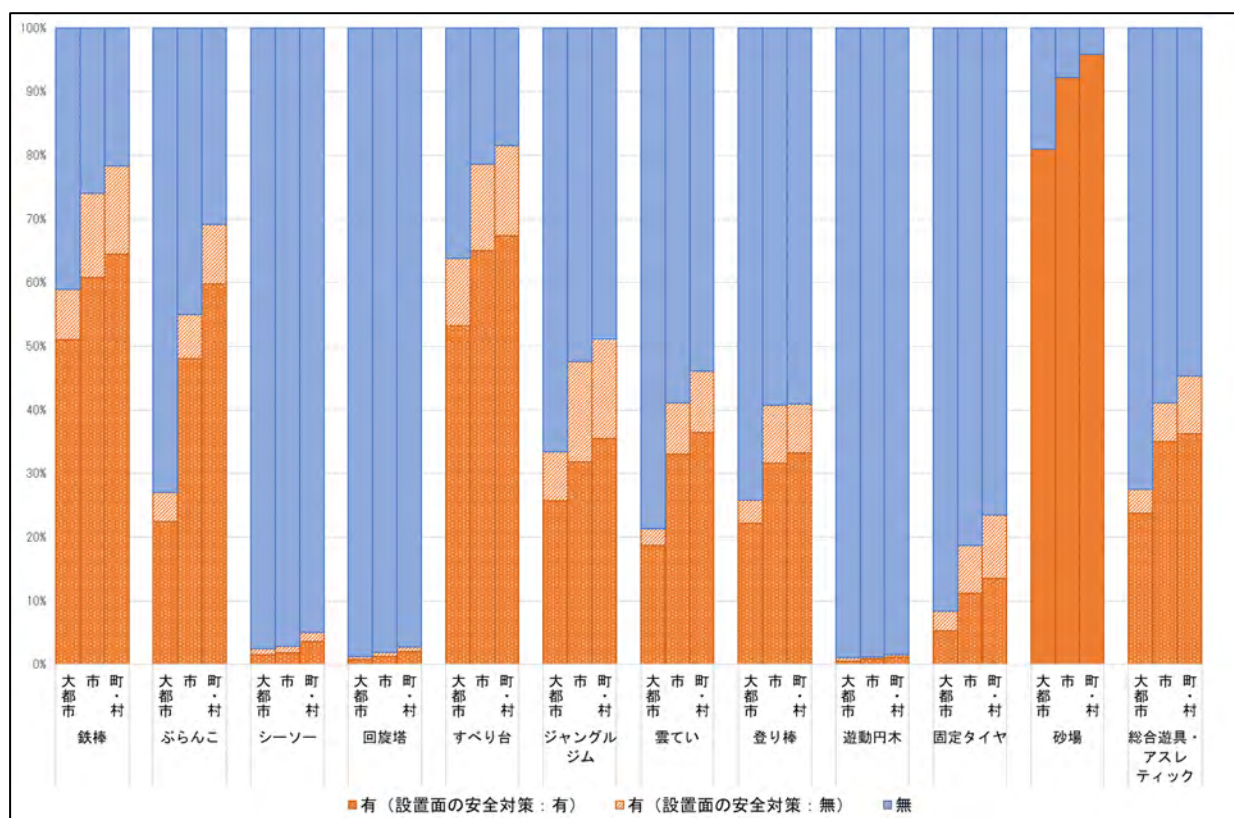


図8 都市規模別固定遊具の設置状況（幼保連携型認定こども園・保育所等）

表7 推定設置数及び事故率（幼保連携型認定こども園・保育所等／全体）

（校）

設置	有			無	総計	事故率
設置面の安全対策	有	無	計			
鉄棒	18,034	3,680	21,714	8,939	30,653	4.5%
ぶらんこ	13,202	2,032	15,234	15,419	30,653	2.2%
シーソー	598	304	902	29,751	30,653	2.4%
回旋塔	377	181	558	30,095	30,653	1.6%
すべり台	19,131	3,973	23,105	7,548	30,653	5.7%
ジャングルジム	9,414	4,245	13,659	16,994	30,653	3.3%
雲てい	9,178	2,126	11,304	19,349	30,653	6.0%
登り棒	9,041	2,347	11,388	19,265	30,653	1.3%
遊動円木	254	105	359	30,294	30,653	5.0%
固定タイヤ	3,071	2,057	5,129	25,524	30,653	1.9%
砂場			27,542	3,111	30,653	3.5%
総合遊具・アスレティック	9,939	1,797	11,735	18,918	30,653	9.7%

表 8 園庭の有無別固定遊具の設置状況（幼保連携型認定こども園・保育所等）

全体	設置 設置面の 安全対策	(校)			(校)			(校)			(校)		
		校庭有り			校庭無し			有			有		
		有	無	総計	有	無	総計	有	無	計	有	無	総計
鉄棒	4,979	1,016	5,995	2,468	8,463	4,834	913	5,747	1,950	7,697	145	103	248
	83.1%	16.9%	70.8%	29.2%		84.1%	15.9%	74.7%	25.3%		58.5%	41.5%	32.4%
ぶらんこ	3,645	561	4,206	4,257	8,463	3,444	469	3,913	3,784	7,697	201	92	293
	86.7%	13.3%	49.7%	50.3%		88.0%	12.0%	50.8%	49.2%		68.6%	31.4%	38.3%
シーソー	165	84	249	8,214	8,463	129	58	187	7,510	7,697	36	26	62
	66.3%	33.7%	2.9%	97.1%		69.0%	31.0%	2.4%	97.6%		58.1%	41.9%	8.1%
回旋塔	104	50	154	8,309	8,463	98	36	134	7,563	7,697	6	14	20
	67.5%	32.5%	1.8%	98.2%		73.1%	26.9%	1.7%	98.3%		30.0%	70.0%	2.6%
すべり台	5,282	1,097	6,379	2,084	8,463	5,028	978	6,006	1,691	7,697	254	119	373
	82.8%	17.2%	75.4%	24.6%		83.7%	16.3%	78.0%	22.0%		68.1%	31.9%	48.7%
ジャングルジム	2,599	1,172	3,771	4,692	8,463	2,522	1,123	3,645	4,052	7,697	77	49	126
	68.9%	31.1%	44.6%	55.4%		69.2%	30.8%	47.4%	52.6%		61.1%	38.9%	16.4%
雲てい	2,534	587	3,121	5,342	8,463	2,480	553	3,033	4,664	7,697	54	34	88
	81.2%	18.8%	36.9%	63.1%		81.8%	18.2%	39.4%	60.6%		61.4%	38.6%	11.5%
登り棒	2,496	648	3,144	5,319	8,463	2,456	632	3,088	4,609	7,697	40	16	56
	79.4%	20.6%	37.1%	62.9%		79.5%	20.5%	40.1%	59.9%		71.4%	28.6%	7.3%
遊動円木	70	29	99	8,364	8,463	59	19	78	7,619	7,697	11	10	21
	70.7%	29.3%	1.2%	98.8%		75.6%	24.4%	1.0%	99.0%		52.4%	47.6%	2.7%
固定タイヤ	848	568	1,416	7,047	8,463	828	561	1,389	6,308	7,697	20	7	27
	59.9%	40.1%	16.7%	83.3%		59.6%	40.4%	18.0%	82.0%		74.1%	25.9%	3.5%
砂場			7,604	859	8,463			7,248	449	7,697			356
			89.8%	10.2%				94.2%	5.8%				46.5%
総合遊具・ アスレティック	2,744	496	3,240	5,223	8,463	2,632	465	3,097	4,600	7,697	112	31	143
	84.7%	15.3%	38.3%	61.7%		85.0%	15.0%	40.2%	59.8%		78.3%	21.7%	18.7%

表9 都市規模別固定遊具の設置状況（幼保連携型認定こども園・保育所等）

大都市				市				町・村			
設置	有			設置	有			設置	有		
	有	無	計		有	無	計		有	無	計
設置面の安全対策			総計	設置面の安全対策			総計	設置面の安全対策			総計
鉄棒	1,032	159	1,191	鉄棒	3,404	740	4,144	鉄棒	543	117	660
	86.6%	13.4%	58.9%		82.1%	17.9%	74.0%		82.3%	17.7%	78.3%
ぶらんこ	454	93	547	ぶらんこ	2,687	389	3,076	ぶらんこ	504	79	583
	83.0%	17.0%	27.1%		87.4%	12.6%	54.9%		86.4%	13.6%	69.2%
シーソー	32	18	50	シーソー	103	54	157	シーソー	30	12	42
	64.0%	36.0%	2.5%		65.6%	34.4%	2.8%		71.4%	28.6%	5.0%
回旋塔	15	10	25	回旋塔	72	34	106	回旋塔	17	6	23
	60.0%	40.0%	1.2%		67.9%	32.1%	1.9%		73.9%	26.1%	2.7%
すべり台	1,076	214	1,290	すべり台	3,638	764	4,402	すべり台	568	119	687
	83.4%	16.6%	63.8%		82.6%	17.4%	78.6%		82.7%	17.3%	81.5%
ジャンゲルジム	520	156	676	ジャンゲルジム	1,780	884	2,664	ジャンゲルジム	299	132	431
	76.9%	23.1%	33.4%		66.8%	33.2%	47.6%		69.4%	30.6%	51.1%
雲てい	377	54	431	雲てい	1,850	452	2,302	雲てい	307	81	388
	87.5%	12.5%	21.3%		80.4%	19.6%	41.1%		79.1%	20.9%	46.0%
登り棒	448	74	522	登り棒	1,768	509	2,277	登り棒	280	65	345
	85.8%	14.2%	25.8%		77.6%	22.4%	40.7%		81.2%	18.8%	40.9%
遊動円木	11	11	22	遊動円木	49	15	64	遊動円木	10	3	13
	50.0%	50.0%	1.1%		76.6%	23.4%	1.1%		76.9%	23.1%	1.5%
固定タイヤ	106	64	170	固定タイヤ	628	420	1,048	固定タイヤ	114	84	198
	62.4%	37.6%	8.4%		59.9%	40.1%	18.7%		57.6%	42.4%	23.5%
砂場			1,637	砂場			5,159	砂場			808
			81.0%				92.2%				95.8%
総合遊具・アスレティック	481	75	556	総合遊具・アスレティック	1,958	344	2,302	総合遊具・アスレティック	305	77	382
	86.5%	13.5%	27.5%		85.1%	14.9%	41.1%		79.8%	20.2%	45.3%

Ⅱ 固定遊具の事故防止対策の取組

1 実状調査の実施概要

小学校並びに幼稚園、幼保連携型認定こども園、及び保育所等（以下「小学校・園等」という。）において、遊具でのけがを防止するために児童・園児が遊具を使用する際、どのようなことに気を付けているのか、使用の際の注意点や遊具の管理方法等について、JSC 各地域事務所管内の小学校・園等の協力を得て、調査を行った。

（１）調査の目的

災害報告書等では得ることのできない学校安全（安全教育、安全管理、組織活動）の実例（具体的には、固定遊具使用の際の注意点や固定遊具の管理方法等の取組の実例）を収集し、学校災害防止調査研究委員会の固定遊具の事故防止対策の資料として使用することを目的とする。

（２）調査期間

令和２年９月８日～１０月２７日

（３）調査方法

固定遊具に対する事故防止対策を実施している小学校・園等に調査を行うこととし、調査校・園等の選定については、以下の指定の中で地域の事情を勘案して行った。

・調査協力学校・園

※（ ）は児童・園児数

仙 台：米沢市立松川小学校（296 人）	・学校法人富沢学園大野田幼稚園（317 人）
東 京：世田谷区立若林小学校（469 人）	・私立保育園（136 人）
名古屋：豊橋市立津田小学校（188 人）	・名古屋市立はとり幼稚園（ 29 人）
大 阪：学校法人大阪初芝学園はつしば学園小学校（515 人）	・大阪市立常盤幼稚園（102 人）
広 島：広島市立上温品小学校（270 人）	・広島市立落合東幼稚園（ 13 人）
福 岡：福岡市立壱岐小学校（897 人）	・学校法人宗学園松崎幼稚園（390 人）

・調査内容

学校災害防止調査研究委員会で作成した調査用紙「固定遊具の事故防止対策調査票」の質問内容に沿って、各地域事務所担当者が小学校・園等の実状について聞き取り調査を行った。

なお、調査用紙の質問内容のほかに、小学校・園等で事故防止のため作成し、使用している資料（学校平面図、年間指導計画表、点検表や点検マニュアル、危機管理マニュアル、固定遊具に関する研修資料、家庭や地域向けに配布した「学校だより」等の資料、その他参考となり得る資料（授業中に配布・使用した資料、校内の掲示物、遊び方のルール）等を収集した。

また、学校・園等に設置されている固定遊具の写真を撮影した。撮影した写真については、本書でその一部を掲載している。

固定遊具の事故防止対策調査票

事務所名		調査担当者		調査年月日			
調査校選定理由 ・ ・							
学校の概要							
学校(園)名							
所在地 丁目				電話番号			
校(園)長名		調査対応者(学校)		調査対応者(設置者)			
学校(園)の規模	教職員数		学級数		児童園児等の人数		
					男子数 女子数 合計人数		
所有する 固定遊具の種類	懸垂運動系(保有数 台)						
	1.雲てい (台) 2.鉄棒 (台) 3.その他() (台)						
	登はん運動系(保有数 台)						
	1.ジャングルジム (台) 2.登り棒(はん登棒)(台) 3.太鼓はしご (台) 4.ネットクライマー(台) 5.ローブクライマー (台) 6.その他() (台)						
	滑降系(保有数 台)						
	1.滑り台(ステンレス) (台) 2.滑り台(木) (台) 3.滑り台(ローラー) (台) 4.その他() (台)						
	揺動系(保有数 台)						
	1.ぶらんこ(一方向ぶらんこ) (台) 2.タイヤぶらんこ(全方向ぶらんこ)(台) 3.遊動円木 (台) 4.箱ぶらんこ(揺りかご型) (台) 5.スプリング遊具 (台) 6.その他() (台)						
	平衡運動系(保有数 台)						
	1.ブレイウォール (台) 2.平均台(台) 3.その他() (台)						
	回転動系(保有数 台)						
	1.回旋塔 (台) 2.回転ジャングルジム(グローブジャングルジム)(台) 3.その他() (台)						
	上下動系(保有数 台)						
	1.シーソー (台) 2.その他() (台)						
	その他(複合遊具等)(保有数 台)						
1.総合遊具・アスレティック(台) 2.固定タイヤ(台) 3.砂場(台) 4.その他【名称()】 5.その他【名称()】							
災害統計システムによる統計情報 (日本スポーツ振興センターにて入力)							
固定遊具の事故状況の概要							
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度		
医療費							
障害見舞金							
死亡見舞金							
遊具での事故状況(平成30年度)							
懸垂運動	登はん運動	滑降	揺動	平衡運動	回転動	上下動	その他

<注意事項>

※「所有する固定遊具の種類」の記入は、該当する固定遊具に○をつけ、台数を記入してください。
※各固定遊具は写真を撮影し、添付してください。また、校庭・園庭の平面図も添付してください。

【別添資料】 小学校

学校名	
1 遊具遊具及び遊具の事故の現状	①最近2～3年間の傾向として、どんな固定遊具で、どんなけがをする児童が多いと感じますか。
	②どんな固定遊具に人気がありますか。
	③固定遊具でどんな遊び方をしていることが多いですか。
	④過去10年以内に、学校敷地から撤去した固定遊具はありますか。 あれば、遊具名と撤去時期、撤去理由を教えてください。(記録に残る範囲でご回答ください)
2 学校における安全教育	(1)安全教育の年間指導計画(安全教育の目標) ※固定遊具に特化した質問 ①固定遊具の正しい使い方、安全な使い方について、児童等について、どのように教えるか、あらかじめ計画(年間の指導計画)を立てて実施していますか。
	②計画を立てて実施している場合は、計画作成に当たりどんな点に留意されていますか。
	(2)安全教育における対策事例 ※固定遊具に特化した質問 ①固定遊具の安全(正しい使い方、安全な使い方等)について、児童等に対し、どのような教育を行っていますか。 事故防止のため、特に力を入れて取り組んでいること等、具体的な指導例等ありましたら教えてください。
3 学校における安全管理	(1)学校環境の安全管理における対策事例(対物管理) ※固定遊具を中心に学校安全全般の質問 ①貴校における安全点検は、どのくらいの頻度でどのような点検を行っていますか。 また、固定遊具に対する安全点検についても頻度・内容を教えてください。
	②点検の結果、固定遊具の不具合、破損等が見つかった場合、どのように改善・修繕を実施していますか。
	③固定遊具の安全点検をする上で、難しい点、困っている点などはありますか。

3 学校 に お け る 安 全 管 理	(2) 学校生活の安全管理における対策事例(対人管理) ※固定遊具を中心に学校安全全般の質問
	① 自校で発生した事故の情報は、どのように把握・管理していますか。また、事故の情報等をどのようにして教職員間で共有していますか。
	② 主に固定遊具における事故防止の観点から、特に休憩時間中の安全管理について、留意している対策等があれば教えてください。 ・見回りをしていますか ・遊具ごとに遊び方のルールを設けていますか
③ 体育活動における鉄棒・砂場での事故防止の観点から、体育の授業中の安全管理について、留意している対策等があれば教えてください。(小学校のみの質問)	
4 安 全 に 関 す る 組 織 活 動	(1) 校内の協力体制 ※学校安全全般の質問
	① 校務分掌、危険等発生時対処要領(危機管理マニュアル)等において、危険等発生時の教職員の役割分担と責任が明確になっていますか。
	② 学校安全に対して、職員会議、学年会など組織的な協力体制が確立していますか。
	③ 危機管理マニュアルに沿った役割分担で事故対応に当たれましたか。改善点等はありませんか。 (実際に事故が発生している学校の場合)
	(2) 教職員の共通理解と研修 ※固定遊具を中心に学校安全全般の質問
	① 事故発生の未然防止や事故発生に備えた事前の取組として、安全に関する知識・技能を向上させるための校内研修は計画的に実施していますか。研修を行っている場合、どんな研修をしていますか。 また、固定遊具に関する研修は行っていますか。(事故防止や安全点検の観点から)
	② 教育委員会等が行う教職員研修や外部研修の中で、固定遊具(安全点検の実施を含む)に関する研修を受けたことがある教職員はいますか。
	(3) 家庭地域との連携 ※固定遊具を中心に学校安全全般の質問
① 「学校だより」等を活用し、家庭や地域でも安全に関する取組が行われるよう、指導依頼や情報提供などをしていますか。	
② 固定遊具の安全な遊び方について、家庭向けに情報発信していることはありますか。 (夏休み等の長期休暇前にした安全指導を含めて)	

5 特 徴 的 遊 具 に 対 応 し て の 事 例	①固定遊具の事故(※自校に限らず)等を踏まえ、設置された固定遊具自体に、または固定遊具の利用ルール等に改善を加えた点があれば教えてください。(遊具別に)
	②近年、新たに設置された固定遊具がある場合、安全面に配慮した特徴的なポイント等があれば教えてください。 (過去10年間のうち、記録に残る範囲でご回答ください)
6 そ の 他	①日常的に、全国における遊具事故をはじめとした事故等に関する情報(点検の仕方等を含む)はどのように入手していますか。
	②JSCからどんな情報提供があれば、学校現場で役に立つと思いますか。(固定遊具の安全を中心にしつつ広く全般に)
	③その他、JSCへのご意見、ご要望があれば教えてください。

【別添資料】 幼稚園、幼保連携型認定こども園、保育所等

学校名	
1 固定遊具及びお遊具の事故の現状	①最近2～3年間の傾向として、どんな固定遊具で、どんなけがをする児童が多いと感じますか。
	②どんな固定遊具に人気がありますか。
	③固定遊具でどんな遊び方をしていることが多いですか。
	④過去10年以内に、園の敷地から撤去した固定遊具はありますか。 あれば、遊具名と撤去時期、撤去理由を教えてください。(記録に残る範囲でご回答ください)
2 園における安全教育	(1)安全教育の年間指導計画(安全教育の目標) ※固定遊具に特化した質問 ①固定遊具の正しい使い方、安全な使い方について、児童等について、どのように教えるか、あらかじめ計画(年間の指導計画)を立てて実施していますか。
	②計画を立てて実施している場合は、計画作成に当たりどんな点に留意されていますか。
	(2)安全教育における対策事例 ※固定遊具に特化した質問 ①固定遊具の安全(正しい使い方、安全な使い方等)について、児童等に対し、どのような教育を行っていますか。 事故防止のため、特に力を入れて取り組んでいること等、具体的な指導例等ありましたら教えてください。
3 園における安全管理	(1)園環境の安全管理における対策事例(対物管理) ※固定遊具を中心に学校安全全般の質問 ①貴園における安全点検は、どのくらいの頻度でどのような点検を行っていますか。 また、固定遊具に対する安全点検についても頻度・内容を教えてください。
	②点検の結果、固定遊具の不具合、破損等が見つかった場合、どのように改善・修繕を実施していますか。
	③固定遊具の安全点検をする上で、難しい点、困っている点などはありますか。

3 園 に お け る 安 全 管 理	(2) 園生活の安全管理における対策実例(対人管理) ※固定遊具を中心に学校安全全般の質問 ① 自園で発生した事故の情報は、どのように把握・管理していますか。また、事故の情報等をどのようにして教職員間で共有していますか。
	② 主に固定遊具における事故防止の観点から、保育中の安全管理について、留意している対策等があれば教えてください。 ・見回りをしていますか ・遊具ごとに遊び方のルールを設けていますか
4 安 全 に 関 する 組 織 活 動	(1) 園内の協力体制 ※学校安全全般の質問 ① 校務分掌、危険等発生時対処要領(危機管理マニュアル)等において、危険等発生時の教職員の役割分担と責任が明確になっていますか。
	② 学校安全に対して、職員会議、学年会など組織的な協力体制が確立していますか。
	③ 危機管理マニュアルに沿った役割分担で事故対応に当たれましたか。改善点等はありませんか。 (実際に事故が発生している学校の場合)
	(2) 教職員の共通理解と研修 ※固定遊具を中心に学校安全全般の質問
	① 事故発生の未然防止や事故発生に備えた事前の取組として、安全に関する知識・技能を向上させるための校内研修は計画的に実施していますか。研修を行っている場合、どんな研修をしていますか。 また、固定遊具に関する研修は行っていますか。(事故防止や安全点検の観点から)
	② 教育委員会等が行う教職員研修や外部研修の中で、固定遊具(安全点検の実施を含む)に関する研修を受けたことがある教職員はいますか。
	(3) 家庭地域との連携 ※固定遊具を中心に学校安全全般の質問 ① 「園だより」等を活用し、家庭や地域でも安全に関する取組が行われるよう、指導依頼や情報提供などを行っていますか。 ② 固定遊具の安全な遊び方について、家庭向けに情報発信していることはありますか。 (夏休み等の長期休暇前にした安全指導を含めて)

5 特 徴 的 遊 具 に 対 応 し て の 事 例	①固定遊具の事故(※自園に限らず)等を踏まえ、設置された固定遊具自体に、または固定遊具の利用ルール等に改善を加えた点があれば教えてください。(遊具別に)
	②近年、新たに設置された固定遊具がある場合、安全面に配慮した特徴的なポイント等があれば教えてください。(過去10年間のうち、記録に残る範囲でご回答ください)
6 そ の 他	①日常的に、全国における遊具事故をはじめとした事故等に関する情報(点検の仕方等を含む)はどのように入手していますか。
	②JSCからどんな情報提供があれば、保育現場で役に立つと思いますか。(固定遊具の安全を中心にしつつ広く全般に)
	③その他、JSCへのご意見、ご要望があれば教えてください。

2 小学校の固定遊具の事故防止対策の実状

(1) 固定遊具における遊具遊び及び遊具事故の現状

ア 最近2～3年間の傾向として、どんな固定遊具で、どんなけがをする児童が多いと感じますか。

- ・鉄棒・雲てい：落下による骨折
(新型コロナウイルスに伴う長期休暇明けに、軽微な災害でも骨折することがあった。)
- ・ジャングルジム：飛び降りて擦り傷を負う、骨折する。
- ・総合遊具・アスレチック：上方の丸太から、足を滑らせて転落
鬼ごっこをしていて遊具に逃げ込み、飛び降りる際、着地に失敗し負傷する。
- ・その他：遊具の近くで鬼ごっこをしていて、前方不注意で遊具にぶつかる。
- ・特になし：総合遊具では、高い所に登って遊ぶので、児童生徒自身が遊び方によってはけがをすることを認識しており、気を付けて遊んでいると考えられ、結果的にけがは少ない。

イ どんな固定遊具に人気がありますか。

- ・雲てい ・鉄棒 ・ジャングルジム ・登り棒 ・すべり台 ・ぶらんこ ・総合遊具・アスレチック
- ※休み時間の観察では、固定遊具を一輪車の練習時の補助として使う子がとても多く見られた。

ウ 固定遊具でどんな遊び方をしていることが多いですか。

- ・雲てい：数本飛ばしで前へ進む。
- ・固定タイヤ：陣取りゲームをしている。
- ・総合遊具・アスレチック：鬼ごっこをしていて逃げ込む。
網やロープ等を伝って遊具の展望部に登ったり、降りたりする。
- ・遊具間のパーツからパーツへの飛び移りをよく見る。
- ・休み時間の遊びとしては追いかけっこが最も多く、子ども達が勢いよく遊具に向かって駆け込んで行く姿をよく見かける。

エ 過去10年以内に、園の敷地から撤去した固定遊具はありますか。

あれば、遊具名と撤去時期、撤去理由を教えてください。

- ・ジャングルジム：校地の都合
- ・ぶらんこ：4年前から使用禁止。予算がなかなかつかないが、撤去予定
- ・木製アスレチック：老朽化

イ 計画を立てて実施している場合は、計画作成に当たりどんな点に留意されていますか。

- ・年度当初は、学年ごとに生活のきまり（遊具の使い方）を確認するよう配置している。
- ・毎年4月がポイントだと考えており、児童だけでなく新規に異動してきた教職員にも遊具の確認、安全指導を行っている。新任者の新しい目で見てもらって遊具の安全に対しての意見交換を行い、考え方を常にアップデートし、安全に関する情報を共有している。
- ・6月には、雨で滑る等の環境要因により発生する事故や、追いかけてこ等走ってしまう児童への指導について留意している。物にぶつかったり、子ども同士がぶつかったりするとどうしても身体の小さい低学年がケガをしてしまうので、特に注意している。（けがは特に1年生に多いので、休み時間に遊ぶ際には黄色い帽子をかぶることを必須にし、周囲に注意を促している。）
- ・子どもの実態を把握し、季節や行事、他教科との関連も考えて計画を作成している。

<提供資料：年間指導計画>

令和2年度 学校安全計画						
月	月の重点目標	安全に関する 主な学校行事	安 全 教 育		安 全 管 理	
			安 全 指 導(○学級活動及び●学級指導)	安 全 学 習(教科と内容)	対人管理	対物管理
4	安全な登下校をしよう	・入学式 ・前期始業式 ・家庭訪問 ・定期健康診断 ・集団下校 ・歩行教室 ・PTA総会 ・登校指導	●道路の安全な歩き方(通学路の確認) ○安全な登下校(子ども1119の家、危険箇所の確認)、身の回りの犯罪(誘拐の起こりやすい場所) ●火災を想定した避難訓練 ●安全な給食配膳 ○安全な学校生活(学校生活のきまり)(右側通行) ●安全な清掃活動 ●交通安全から身を守る ●遠足時の安全 ・集団での歩行の仕方 ・交通機関利用時の安全 ●登校指導	(生、体)固定施設等の安全な利用の仕方 (生、特)運動場の安全な利用の仕方 (生、理、図、家)用具の正しい使用方法 (生、理)移りば、スコップの正しい使用方法 (生、理)野外観察の交通安全 (家)ガスコンロや包丁の安全な使い方	・安全な登下校の仕方 ・安全のきまりの設定 (学校生活における給食、清掃等) ・安全な用具等の取扱と使用方法	・安全点検票作成と担当者 者の決定 ・校内外の整備(用具 及び清掃場所等の確 認) ・安全点検 ・安全に関する表示(掲示 物)等の確認 ・遠足(学校から現地ま で)の安全等確認 ・机・いす整備、移動
5	安全に休み時間を過ごそう	・定期健康診断 ・石拾い	●避難訓練の参加の仕方と意義 ●休み時間の安全(約束) ・休憩時間の校内外の行動の仕方 ・休み時間における事故とけが ○遊び場や行き帰りの安全 ・防犯にかかわる人々 ・子ども1119の家 ●運動時の安全について ・個々のペース配分 ・水分補給 ・熱中症予防と対処方法 ●登校指導	(理)実験等における器具、薬品の正しい使用方法 (道)公共の施設を利用するための規則 (体)運動の場の安全確認 (算、図)コンパスの正しい使用方法 (生、社)地域探検等における交通安全 (家)食品の取扱い方 (家)調理用具・器具の安全な使い方 (家)熱湯の安全な取扱い方	・校庭、体育館での 安全な過ごし方の 確認	・安全(定期)点検 ・体育施設の安全(日常) 点検と整備 ・通学路の安全確認 ・通学路の点検
6	梅雨時の安全な生活をしよう	・水難救助講習会 ・避難訓練(土砂災害) ・新体力テスト実施 ・プール清掃 ・水泳指導開始 ・体力アップデー、体育祭会	●雨天時の約束 ・雨天時の安全な過ごし方 ・雨天時の事故とけが ○プールの約束 ・安全なプールの利用の仕方 ・救急法、着衣水泳 ●プール清掃の仕方 ●登校指導 ○夏休みの安全な過ごし方	(図)のこぎり、カッターナイフ、小刀、電動のこぎり等の使 用方法 (生)虫探し、まじり探検等の交通安全 (体)水泳前の健康観察 (体)水泳時の安全	・水泳における安全のき まりを確認 ・校舎内での安全な過 ごし方	・学校環境の安全点 検、整備 ・安全(定期)点検 ・新体力テストの準備 ・避難経路の確認
					・自転車乗車時のき	・夏季休業中の校舎

② 安全教育における対策実例

ア 固定遊具の安全（正しい使い方、安全な使い方等）について、児童等に対し、どのような教育を行っていますか。事故防止のため、特に力を入れて取り組んでいること等、具体的な指導例等ありましたら教えてください。

（遊具の使い方）

- ・雲ていでは、足がつかない高さの所は、支援できる大人がいる時に挑戦するよう指導している。

（ルール）

- ・雲ていの使用は3年生以上とし、利用する際は一方通行での利用を指導している。
- ・遊具の使用中は、ボール当てや鬼ごっこなどのようにスピードが出る遊びは禁止している。
- ・ジャングルジムから飛び降りて負傷（骨折等）する事故が起こったため、「高いところからは飛び降りない」という指導を行っている。

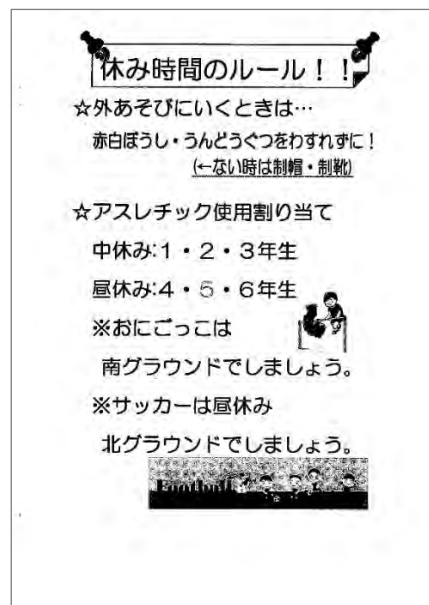
（環境整備）

- ・休憩時間の遊ぶスペースは、リスク軽減のため、学年によって曜日ごとに遊ぶ場所を指定（校庭か体育館か）している。

（指導法）

- ・体育時は、準備運動を丁寧に行うことを教職員で確認している。
- ・授業の前の安全指導を実施している。
- ・年度初めは、慣れていない1年生の遊具利用は、徐々に進めるよう指導している。
- ・遊具使用のルールは、ホームルーム等で各担任から児童生徒に伝えている。
- ・年度当初に、1年生の生活科・体育の授業の中で遊具について指導しているが、職員も副読本で共通理解を図った上で指導を徹底している。
- ・年度始めに、全生徒の家庭に配布するハンドブックに、校庭で遊ぶ時の注意事項（雨の日の校庭の使用禁止等）を掲載している。内容は生活指導担当、養護教諭等が中心になって作成・更新する。
- ・遊具による骨折事故と交通事故が続いたので、緊急の臨時全校集会を開き、命の大切さ等について指導を行った。

<提供資料：休み時間のルール>



（３）学校における安全管理

① 学校環境の安全管理における対策実例（対物管理）

（※固定遊具を中心に学校安全全般について）

ア 安全点検は、どのくらいの頻度でどのような点検を行っていますか。

また、固定遊具に対する安全点検についても頻度・内容を教えてください。

（毎月）

- ・安全指導担当を中心に、毎月（12回／年）の安全指導日に、安全点検カードに記入していく形で教員がローテーションで実施している。

（年１回）

- ・毎年１回、６～７月に業者点検を実施している。（業者は、設置者（教育委員会）が選定している。）
- ・業者点検は年に１回。設置者（教育委員会）で管理しており、連絡が来たら対応している。

（その他）

- ・遊具使用時に災害があった際に、遊具に問題が無かったか確認している。

（点検内容）

- ・目視によるゆがみや亀裂、摩耗等についての点検に加え、遊具を揺らして緩み等の確認も行う。
- ・普段、子どもの様子をしっかりと見て、子どもの目線に立って点検することを意識している。

イ 点検の結果、固定遊具の不具合、破損等が見つかった場合、どのように改善・修繕を実施していますか。

- ・職員が修繕を行う。
- ・技術員に相談し、修繕不可能な場合は使用禁止の貼り紙をして、設置者に修繕を依頼する。
- ・「学校施設修繕申請書」「学校施設改良等要望書」により設置者（教育委員会）に修繕を申請する。
- ・担当教員から教頭へ報告がある。学校で修繕可能であれば修繕し、業者が必要な場合は設置者（教育委員会）の施設課へ報告し対応する。

ウ 固定遊具の安全点検をする上で、難しい点、困っている点等がありますか。

（見えない部分）

- ・登り棒の高い所等、目視が難しい部分の点検は教員には難しく、業者頼みである。
- ・点検は目視によることが多いため、実際に遊具の動きの不具合には気付きにくいと感じている。
- ・見えない所があるので、ゆすってみたり、叩いて音の変化に注意したりしながら行っているが、不安。

（予算面）

- ・点検費用がかかる。

（その他）

- ・点検用の専用器具が無いため、目視や触って見る等だけの点検になっている。
- ・点検に用いるチェック表が無い。

② 学校生活の安全管理における対策事例（対人管理）

（※固定遊具を中心に学校安全全般について）

ア 本校で発生した事故の情報は、どのように把握・管理していますか。また、事故の情報等をどのようにして教職員間で共有していますか。

（事故の情報の把握）

- ・けがをした児童と、周りで見ていた児童からの聞き取り及び現場での状況再現により事故の実態を把握する。

（教職員間での共有）

- ・メールで周知する。
- ・事故発生時に、臨時で職員連絡を行う。
- ・保健室が月1回発行する「来室だより」に掲載する。
- ・担任・養護教諭・管理職で、事故情報を共有し、再発防止策について、全教職員に周知する。
- ・事故が起きた際は、事故報告書（資料参照）を作成し、教職員間で共通理解を図っている。
- ・週1回の職員連絡において、情報を共有している。
- ・保健室だより【職員版】により、保健室来室者状況、医療機関を受診した主なけがの状況や診断結果等を教職員間で共有している。

<提供資料：事故報告書>

教育委員会教育長 様
小学校 校長 様

②
児童の事故について（報告）

平素より、児童の事故が発生しましたので、報告いたします。

記

1 事故の種類 遊具から落下する際に腕に鋭い刺さる

2 事故者の学年氏名 住 所 保護者氏名

3 発生日時 年 月 日（ ）午後2時15分ごろ

4 発生場所 小学校グラウンドの遊具

5 事故の概要

① 事故の発見・状況
5時前日の1年生合同の学級活動の終了後2時15分ごろ、主活動を終えたグループから遊具で遊ぶ児童が数人、遊具から落ちてその場で泣く児童を他のクラスの児童が発見。知らせを受けた、保健室の担任は保健室に駆けつけ、保健室に連れて行きました。

② 事故の内容
①の時間中に遊具で遊んでいた時に、左腕で遊ぶ下の子が右腕を二本目の腕に絡めようとしたところ、袖をつかみ、パタパタと振った状態で右腕の腕もぐりぐり落下する際に右腕でリカバリーを試み、右手指関節を強く鋭い刺さるに当たりました。

6 事故処理状況
怪傷を受けた児童は、平素からの怪傷が重なるため、即受診するべきと判断。肩合わせ校長、教頭、保健室の先生、養護教諭等が迅速に対応する間に児童が母に抱かれ、その母を伴って、近隣の整形外科に急送して診察してもらった。保護者に直接連絡して来てもらうことにした。午後2時30分ごろにタクシーを呼び、10分後に到着。担任と養護教諭が同乗し午後3時ごろに児童を病院。病院で完治を祈る。レントゲン検査の結果「尺骨」（しゃっこつ）「橈骨」（とうこつ）の両方が手首に近い部分で骨折骨折。骨折した部分に二本とも骨が折れており、両腕の骨折は骨折で済んだこと。①は骨折への報告状を書いてもいい。児童は父兄の車で、担架に運ばれて現場で待たされた。②は病院の救急で骨折が骨折と診断され、切開せずに骨をもとの位置に戻し、ギプスで固定、リハビリを含め約1か月程度と診断された。

7 校長所見
学校現場は日々、新しい生活様式を守りながらも元気に児童を育てていく中で、この度の事故は残念でならない。チャレンジ精神をもちつつも安全に十分注意することを全教職員に指導するとともに、各学級等に伝えている点について、協力をお願いいたします。

8 その他参考事項（事故現場写真）

先生 劉 先生

年 組 さんのけがの件について記入をお願いします。

※けがの状況について対象児童に確認され、記入後、保健室に提出してください※

災害報告書 下書き

フリガナ	男・女	保護者名
年 組 名前		
生年月日	平成 年 月 日 生	
科 目	場 所	
日 時	年 月 日（ ） 時 分	
災害の内容（なるべく具体的に記入してください）		
いつ（何の時間）		
どこで		
何をしていた		
何が原因で、どうなって		
どこを（体の部位・左右など）		
どうした		
学校の対応（処置の内容）		けが後の学級指導内容
備考（目撃者、病状名等）		

イ 主に固定遊具における事故防止の観点から、特に休憩時間中の安全管理について、留意している対策等があれば教えてください。

・見回りをしていますか ・遊具ごとに遊び方のルールを設けていますか

(見回り)

・見回りにあたっては、

密集して遊んでいる場所、特に低学年と高学年が混在して集まっている場所

下が土・砂でない場所（犬走り等のコンクリート舗装部分等。滑りやすく、ひどいけがになるため）

ボール遊びをしている児童（夢中になって周囲に注意が行かず、衝突しやすいため）

等に留意している。

・職員室からグラウンドが見えるため、休憩時間中に教職員を配置してはいないが、何かあったら担当学年の先生に行ってもらい声を掛けている。

(遊び方のルール)

・遊んで良い遊具の種類を限定したり、遊べる学年を設定したりしている。

・遊び方のルールは、「体育に関する指導管理」に記載し、職員間で共有している。

・遊具にシールで注意書き（雲てい・登り棒の上には乗らない、一方通行の注意喚起）を貼り、視覚化している。

<写真：雲ていの注意書き>



ウ 体育活動における鉄棒・砂場での事故防止の観点から、体育の授業中の安全管理について、留意している対策等があれば教えてください。

(鉄棒)

- ・授業前に、安全な使い方について指導し、危険な場合はマット等を敷く。
- ・体を支えられない児童の指導をする時は、他の子の活動を止めさせる。

(砂場)

- ・砂の中をこまめに掃除している。
- ・幅跳びをする時は、踏み固められた砂を耕してから使用している。
- ・授業用(大)と造形用(小)の2か所があるが、両方とも授業で必要な時以外は開放していない。(上にカバーをかけている。)

(鉄棒・砂場共通)

- ・使用する鉄棒・砂場について、事前に確認し、準備をしている。
- ・気付かないうちにけがをしていたり、体調を崩したりすることがあるため、授業後の体調について呼びかけをし、管理を徹底している。
- ・指導に不安がある担任がいれば、教諭間でフォローしあい、共通理解を図る。

(4) 安全に関する組織活動

① 校内の協力体制(学校安全全般)

ア 校務分掌、危険等発生時対処要領(危機管理マニュアル)等において、危険等発生時の教職員の役割分担と責任が明確になっていますか。

- ・事故発生時の対応マニュアルにおいて、役割分担がされている
- ・危険等発生時の教職員の役割分担と責任が、明確になっている。
- ・教育委員会からの指針「対処法の流れ」に基づき、行動している。
- ・固定遊具を含む校舎周辺の安全点検の担当者は、校務担当者として明確にされている。
- ・安全マニュアルを基本としており、安全指導計画と避難計画は生活指導教員が担当している。
- ・災害発生時の状況によっては、担当の教職員が休んでいたりと、教職員自体が少なかったりする時間帯等が考えられるため、教職員の役割が都度変わることも考慮し、各教職員がどのような役割があるのかを把握し、臨機応変に対応できるようにしている。
- ・危機管理マニュアルには、事故が発生した場合、現場での応急処置、職員室への連絡等について記載している。職員室にいる教職員が分担して、首から上のけが、骨折等は速やかに校長へ報告し、必要な応急処置を実施し、病院へ搬送する。校長の指示により家庭連絡、設置者(教育委員会)への報告等を行う。対応中は職員室に情報が集まるように図式化している。

イ 学校安全に対して、職員会議、学年会など組織的な協力体制が確立していますか。

- ・骨折等の重大事故が起きた際は、当該事例を用いて、教職員間の共通理解を図る。
- ・保健体育部において、「体育に関する指導管理」を作成し、4月に職員会議で共有する。
- ・事故が続いた場合は、状況に即した事例を挙げ、対処方法や未然防止について研修会を行う。
- ・学校安全委員会を設置（校長・教務・養護教諭・各学年の担当職員）し、教職員間の共通理解を図っている。
- ・危機管理マニュアルを基に学校内での教員間の連絡体制を明確にしており、組織的な協力体制を確立している。
- ・学校安全の全体計画に基づき、管理職と安全指導担当者で対応する。情報共有として毎日の夕会（職員会議）を開催している。さらに、週に1回金曜に、生活指導夕会で情報共有をしている。

ウ 実際に事故が発生した際、危機管理マニュアルに沿った役割分担で事故対応に当たれましたか。改善点等はありませんか。

- ・危機管理マニュアルに沿った役割分担で、対応に当たることができた。
- ・基本はマニュアルどおり対応しているが、災害発生時の状況により、担当の教職員が休んでいたり、教職員自体が少ない時間帯であったりすれば、臨機応変に対応している。

② 教職員の共通理解と研修（※固定遊具を中心に学校安全全般について）

ア 事故発生の未然防止や事故発生に備えた事前の取組として、安全に関する知識・技能を向上させるための校内研修は計画的に実施していますか。

研修を行っている場合、どんな研修をしていますか。また、固定遊具に関する研修は行っていますか。

（研修）

- ・骨折等の重大事故が起きた際は、事例を用いて教職員間の共通理解を図るとともに、事故が続いた場合は、状況に即した事故事例を挙げ、対処方法や未然防止について研修会を行っている。
- ・AED研修にて、AEDの使用方法・対処方法について研修会を行っている。

（その他）

- ・遊具の新規設置時に、業者からの説明を受け、安全に関する知識を高めるようにした。
- ・アレルギー研修にて、エピペン注射の使い方を学ぶ。
- ・アレルギーを持っている児童のランドセル設置場所を決めている。

（行っていない）

- ・固定遊具に関する研修は行っていない。

イ 教育委員会等が行う教職員研修や外部研修の中で、固定遊具（安全点検の実施を含む）に関する研修を受けたことがある教職員はいますか。

※「いる」に該当する回答なし

（いない）

- ・該当する教職員はいない。固定遊具の安全に関する研修自体、あまり無いと思われる。
- ・該当する教職員はいない。設置者（教育委員会）においても、学校に対し実施していない。
- ・遊具に関する知識（砂に埋もれると錆びてしまう、等）を教職員間で情報共有し、事故防止に努めている。
- ・研修等を受けたことはないが、年に1度の業者点検の際に立会い、日頃見るポイントや気を付けるポイント等を教えてもらい、情報収集をしている。

③ 家庭地域との連携（※固定遊具を中心に学校安全全般について）

ア 「学校だより」等を活用し、家庭や地域でも安全に関する取組が行われるよう、指導依頼や情報提供などを行っていますか。

（「学校だより」等の活用）

- ・交通安全や自然災害等について、状況に応じておたよりを出し、注意を呼び掛けている。
- ・「保健だより」を月1回発行し、保健室利用者数や災害共済給付制度等について保護者に知らせている。

（地域との連携）

- ・保護者・地域の方に、交通安全の見守りをお願いしている。
- ・運動会等、地域の方が校内に立ち入る際には、テープで囲む等して固定事故による事故の発生を予防している。
- ・学校の敷地は、地域の方も公園のように利用するため、自校の児童に対してだけではなく、「コミュニティセンターだより」等を通して、安全な使い方について地域に知らせることも必要なのかと感じており、今後発信していきたいと考えている。

（その他）

- ・けがをした児童の家庭には、個別に状況を説明している。
- ・家庭・地域との連携は、実施していない。

イ 固定遊具の安全な遊び方について、家庭向けに情報発信していることはありますか。

- ・長期休暇中の安全指導全般は行っているが、固定遊具に特化しては行っていない。
- ・夏休み前にはお知らせを配布しているが、固定遊具というよりは熱中症等についての注意喚起である。

（５）固定遊具における特徴的な対応事例

ア 自校に限らず、固定遊具の事故等を踏まえ、設置された固定遊具自体に、または固定遊具の利用ルール等に改善を加えた点があれば教えてください。

（鉄棒）

- ・曜日ごとに使用する学年を決めている。（一輪車も同様）
- ・周りに印をつけて、その中には入らない等の対応を取っていた。

（運動場のどの位置に設置するのか、設置場所によって事故の発生率が変化すると感じた。）

（雲てい・登り棒）

- ・地面に人工芝を敷いた。
- ・他校で雲ていから落ちて児童がけがをしたとの情報から、自校の雲ていの使用ルール（３年生以上、一方通行）を決定した。

（固定タイヤ）

- ・固定タイヤがへこんで児童が転倒する事故があったので、すべてのタイヤを点検した。

（総合遊具・アスレティック）

- ・遊具や切り株の天面をマットでカバーし、クッション性を高めた。

（特になし）

- ・大きな事故はなく、現段階で利用ルール等に変更はない。

イ 近年、新たに設置された固定遊具がある場合、安全面に配慮した特徴的なポイント等があれば教えてください。

- ・固定遊具の設置時に、リスク軽減のため予め地面をクッション性のある舗装（陸上競技場のトラックと同質のタータン）で覆っている。新設校では同様の設備が多いと聞いているが、この舗装によるデメリットは特に無いと感じている。
- ・設置時点での設置面の対策は、区と業者で検討の上で行っている。

＜写真：遊具設置面の安全対策が行われた校庭＞



(6) その他

日常的に、全国における遊具事故をはじめとした事故等に関する情報（点検の仕方等を含む）はどのように入手していますか。

- ・設置者からの情報提供（5件）
- ・学校安全ナビ等 JSC からの情報提供（2件）
- ・文部科学省等役所から発行された通知等（2件）
- ・テレビやインターネットのニュースを通して情報収集（6件）
- ・校長会、近隣のブロック会等での情報交換

3 幼稚園の固定遊具の事故防止対策の実状

(1) 固定遊具における遊具遊び及び遊具事故の現状

ア 最近2～3年間の傾向として、どんな固定遊具で、どんなけがをする児童が多いと感じますか。

- ・鉄 棒：頭部打撲（くぐり抜けようとした時）が多い。
鉄棒の上に座っていて落ちる、座ろうとして落ちる。
- ・ジャングルジム：頭部打撲（しゃがんでいて起き上がった時、転倒した時）、歯の打撲が多い。
体のバランスを崩して落下する。
足を踏み外して落下し、お尻や背中を打撲する。
- ・登り 棒：体のバランスを崩して落下する。
- ・ぶらんこ：バランスを崩して転落する。（2件）
乗っていない園児が、揺れているぶらんこにぶつかりけがをする。
- ・砂 場：砂が眼に入る。
- ・総合遊具・アスレティック：斜面を降りる時や、逆上がりの失敗時等に尻もちをつく。
足を踏み外して顔面を打つ。
- ・全 般：遊びの経験が少ないことや、体力が低下傾向にあり、腕で支える力が弱く、落下するケースが多いと感じる。

イ どんな固定遊具に人気がありますか。

- ・ジャングルジム
- ・ぶらんこ
- ・砂場（水を流して山を作ったりする等、創造性の高い遊びが人気）
- ・総合遊具・アスレティック（斜面を勢いよく駆け上がる、基地や家に見立てて遊ぶ等）

ウ 固定遊具でどんな遊び方をしていることが多いですか。

- ・雲 て い：端から端まで落ちずにできるようになりたい等、幼児なりに目標をもって繰り返し取り組み。
- ・鉄 棒：布団やこうもりのように、様々なぶら下がり方を楽しんでいる。（2件）
前回りや逆上がりをしている。
- ・ジャングルジム：登って家族ごっこ。友達と一緒に一番上まで登り、基地にする。
- ・ぶらんこ：立ち漕ぎをする。
友達と話しながらのんびり乗る。
- ・砂 場：スコップやバケツ等を自由に使って、創造力いっぱい遊んでいる。
- ・総合遊具・アスレティック：遊具を利用して、おままごと遊びをしている。
- ・鬼ごっこや、アニメのキャラクターごっこ等のごっこ遊びが多い。
- ・鬼ごっこで遊具に上らない等、使い方について指導しているため、通常の使い方をしている。

エ 過去 10 年以内に、園の敷地から撤去した固定遊具はありますか。
あれば、遊具名と撤去時期、撤去理由を教えてください。

- ・雲てい、2歳児用すべり台：園庭や砂場を広く取りたいため、及び（園の方針として）固定遊具で培われる運動能力を体操で補うことができると考えたため。
- ・避難用の室内すべり台：園舎立替のため
- ・総合遊具・アスレティック：木製で摩耗等があったため
- ・プラスチック製のカプセルハウス（家型の遊具と滑り台が繋がったもの）：すべり台部分が劣化したため。

（２）園における安全教育

① 安全教育の年間指導計画（安全教育の目標）

ア 固定遊具の正しい使い方、安全な使い方について、児童等にいつ、どのように教えるか、あらかじめ計画（年間の指導計画）を立てて実施していますか。

（年齢ごと）

- ・年少クラス・年中クラスの子供に対しては４月に、遊具の正しい安全な使い方について指導している。
- ・クラスごとに、担任から正しい使い方を聞く。

（時期ごと）

- ・年度初めに、全園児対象に遊具の使い方を説明する集会を行う。
- ・年度当初、園児全員で園内巡りをし、遊具の名前や使い方を指導する。その後、年少児にはクラス単位で握り方、持ち方の指導をする。また、教員が見回りの際に、使い方に関する問題がある園児に対しては個別指導している。
- ・毎年９月の保健指導・安全指導で再確認をする。
- ・年度の保健安全計画に、「遊具の使い方、遊び方、けがにつながる危険な行動事例紹介」「けが防止の指導」「雨の日の注意・室内遊びについて」を生活指導内容として記載している。
- ・年度の保健安全計画の４・５・９・１０・１１月に、「遊具の使い方」を指導内容として記載している。

（随時）

- ・基本的なルール（並んで順番を待つ等）は、随時教えている。
- ・園全体で指導→クラス単位で指導→個別で指導、と１人に対し何度も指導する。

＜提供資料：幼稚園の保健安全計画（抜粋）＞

月 項目	4	5	6	7・8	9
行事	入園式・始業式 定期健康診断	身体測定・内科検診・歯科検診 園外保育・遠足	園外保育・遠足 プール開き	夕涼み会 交通安全指導 終業式	始業式・運動会 園外保育・遠足 身体測定
生活安全	○園内の安全な生活の仕方 ・登降梯の仕方 ・遊びの場や遊具、用具の使い方 ・小動物への対応の仕方 ・困ったときの動き方 ○園外保育での安全な歩き方	・家庭や遊びの中で必要な遊具や用具の使い方 ・小動物の家庭の仕方 ○園庭で行動するときの約束 ・一人で行動しない	○雨の日の安全な生活の仕方 ・用具の扱い方、給水の仕方 ・廊下や室内は滑らない ○水遊びのきまりや約束 ・準備体操 ・プールでの約束 ○乗り物に関する約束 ・車中や公衆の場での過ごし方	○夏季休業中の生活について（家庭での過ごし方） ・知らない人についていかない ・外出時の約束	○生活のリズムを整え、楽しく安全な生活 ・避難時の約束 ・遊具や用具の安全な使い方 ○戸外で体を十分に動かして遊ぶ
交通安全	○安全な登降梯の仕方 ・交通安全の約束	○道路の安全な歩き方 ・横断、歩行等の意思や安全確認 ・園外保育を通じた交通安全の約束	○雨の日の安全な歩行の仕方 ・傘の持ち方 ○園外保育での安全な歩き方	○交通安全に関する約束を再確認 ・飛び出し ・道路で遊ぶ ・自転車に乗るとき約束	○遠足・園外保育での交通安全 ・道の端を歩く ・ふざけながら歩かない

イ 計画を立てて実施している場合は、計画作成に当たりどんな点に留意されていますか。

- ・ 起こりやすいけが、実際に起こったけがを参考にする。
- ・ 全日本私立幼稚園連合会の「安全対策のてびき」を参考にしている。
- ・ 子供達に伝わりやすいように、危険な使い方を教師が実際にして見せたり、写真や絵など視覚教材を用いたりして、視覚に訴える指導をするようにしている。
- ・ 前年度の取組を基に、危険な遊び等、色々な遊びを教員で出し合って、振り返りをしながら計画作成に当たる。長期休暇後には必ず振り返りを行い、修正点や改善点がないか確認する。
- ・ 幼児の発達や、本園の幼児の体の動き等を踏まえて計画する。
- ・ 計画的に固定遊具の使い方を考え、それに応じて安全に使用できるように指導している。

② 安全教育における対策事例

ア 固定遊具の安全（正しい使い方、安全な使い方等）について、児童等に対し、どのような教育を行っていますか。事故防止のため、特に力を入れて取り組んでいること等、具体的な指導例等ありましたら教えてください。

（遊具の使い方）

- ・ジャングルジムや鉄棒を、きちんと掴むことを指導している。（2件）
- ・友達が鉄棒をしている時は、離れるよう指導している。
- ・ぶらんこでは、待ち場所が分かるように柵の外にベンチを置き、乗っている幼児がいる時は、教師も一緒に座って絵本を読みながら順番を待つようにしている。
- ・総合遊具の斜面の上り下りは、順番を守って一人ずつ、と注意喚起を行っている。
- ・縄とびを、固定遊具に結びつけないよう指導している。

（ルール）

- ・危険な行為（押さない、引っ張らない、遊具の上に座らない等）について指導している。
- ・帽子は必ずかぶるよう指導している（首の後ろにぶら下げたままの子供が多い。）。
- ・身に着けている物（かばん、水筒等）や手に持っている物は、置いてから遊ぶように指導している。（2件）
- ・新型コロナウイルス感染症予防のため、降園後に固定遊具の消毒を実施しており、消毒後は触れないよう柵を置き、保護者・園児に対し注意喚起している。

（指導法）

- ・使用時は近くで見守ったり、時には教師と一緒に遊びながら安全な使い方を見せたりする。
- ・園庭遊具事故防止マニュアルに基づき指導している。
- ・使用する前に、使い方、安全についての指導を行い、幼児なりに意識できるようにする。
- ・基本的な使い方は4月に指導を行い、その後は日常の見守りの中で随時指導している。
- ・年度初め（4月）に、保育室で園内・園庭での遊び方について、フリップを使用し説明している。翌日に園内・園庭巡りをし、実際に目の前で遊具の名称を教え、やってはいけない行為について問いかけ、園児達に考えさせている。園内と園庭の遊具について、クラスごとに確認しないうちは使用しないようにしている。
- ・遊具でのけががあった際は、全クラスに翌朝の挨拶で問いかけ方式で周知する等、年間を通して折に触れて指導している。
- ・年長児は、災害発生の状況を基に、どうして事故が起きたのか、どうやったら危ないのかを子供同士が話し合い、ルール決めをし、遊び方を学ぶようにしている。
- ・小さい子供ほど、耳からの情報だけでなく、目からの情報が捉えやすいと思われるので、そういった指導を意識している。

(3) 園における安全管理

① 園環境の安全管理における対策実例（対物管理）

（※固定遊具を中心に学校安全全般について）

ア 貴園における安全点検は、どのくらいの頻度でどのような点検を行っていますか。また、固定遊具に対する安全点検についても頻度・内容を教えてください。

（毎日） ・ 毎朝、園庭清掃の際等に、目視で日常点検を実施している。（2件）

（毎月） ・ 毎月「安全対策チェックシート」を用いて点検を実施している。

・ 月1回、点検している。（2件）

（年2～3回）

・ 砂場の砂は、年に2回入れ替えを行っている。使用しない時は砂場の周りをネットで囲み、猫等の侵入に備えている。

・ 年に3回、遊具業者に点検を依頼している。（総合遊具をオーダーメイドで作っており、その製作をお願いした遊具業者に点検を依頼しているため、園独自の点検表等はない。）

（点検内容）

・ 安全点検表に基づき、点検している。

・ 園庭遊具事故防止マニュアルに基づき管理している。

・ 新型コロナウイルス感染症予防のため、降園後遊具を消毒する際にも目視で日常点検を実施している。

・ 日常の安全点検は、先生方の目視や実際に遊具を使ってみる（すべり台を滑る等）ことで不具合を見つけ対応している。

・ 時間をかけてトンカチで叩いて音で確認する、サビのチェック等、目で見て、音を聞き、触って確認する。

・ 砂場で使用するスコップ等は毎年買い替えている。片付けの時に不具合があるかチェックし、必要な場合は、その都度取り替えている。

・ 安全点検の時期は毎日、児童の登園前の見回りの時間、遊具遊びの見守りの時間、片付けの時間等、随時全ての職員が点検を行うようにしている。

・ 業者点検については、保育用品納入業者の紹介で行っている。

＜提供資料：幼稚園の安全点検表＞

場所	点検項目	判定	備考
園庭	でこぼこがないか、滑りやすくなっていないか		
	石ころ、ガラス片など危険物はないか		
	運動や遊びの邪魔になる場所に障害物はないか		
	側溝、金所、止水栓などのふたは完全に閉まっているか		
	園舎のまわりに危険なものはないか		
砂場	樹木の枝が危険な状態になっていないか		
	遊具は破損していないか		
	砂がたくなっていないか		
	石ころガラス片など危険物が入っていないか		
	動物の糞が落ちていないか		
スライ	池のまわりは危険な状態でないか		
	遊具は整備されているか		
スライ	置き台が破損していないか		
	ハンドルのゴムが破損していないか		
一輪車	一輪車は破損していないか		
	練習補助台・置き台は破損していないか		
鉄棒・ジャングルジム	支柱が腐食していないか		
	押さえるネジが紛失したりゆるんだりしていないか		
	さびていないか		
	周囲にきけんなものが置かれていないか		
器具	小屋の中、周辺は危険な状態でないか		
	飼育用品管理はされているか		
プール	プールの中、プールのサイドに危険物はないか		
	プールのサイドが滑りやすくなっていないか		
	洗体槽に危険物が入っていないか		
	プールの入口の施設はされているか		
	風呂の管理は安全か		

イ 点検の結果、固定遊具の不具合、破損等が見つかった場合、どのように改善・修繕を実施していますか。

- ・不具合があれば、すぐに業者に修繕を依頼している。
- ・園長・主任に報告し、簡単に修繕できるところは教職員が随時修繕・補修を行う。
- ・問題があればすぐに改善し、改善が遅れる場合は、使用中止の貼り紙をしている。
- ・最近、年少児童向けぶらんこの鎖のカバーが摩耗したため、すぐに使用を中止し交換した。
- ・園で対処できる場合は対応し、対応できない場合は設置者（自治体）に相談する
- ・即座に対応出来ない場合は、コーンとバーで周囲を囲い、立ち入り禁止にする。園児にも分かりやすいように、イラスト入りで表示する。
- ・設置者（教育委員会）の施設課に連絡し、必要であれば業者に連絡する。
- ・教職員では修理できないところや業者による安全点検でC・D判定が出たときには、遊具の使用を中止し、園から業者に依頼し、修繕を行う。
- ・日頃の遊びの中で、揺れが見つかったり、少しでもおかしいと感じたりしたら、職員で共有した上で遊具を使用禁止にし、調査するようにしている。

ウ 固定遊具の安全点検をする上で、難しい点、困っている点等がありますか。

- （見えない部分）
- ・使用しているうちに砂に埋もれてしまうため、地中部分の点検が難しい。
 - ・さびや破損等、表面上の確認はできるが、木製遊具の腐食による危険性の判断は難しい。
- （予算面）
- ・劣化したものへの対応に必要な予算の措置が困難である。
- （特になし）
- ・点検についての情報がたくさんあるので、難しい点、困っている点はない。（2件）

② 園生活の安全管理における対策実例（対人管理）

（※固定遊具を中心に学校安全全般について）

ア 自園で発生した事故の情報は、どのように把握・管理していますか。また、事故の情報等をどのようにして教職員間で共有していますか。

（事故の情報の把握）

- ・当日中に、事故について職員の終礼で報告し情報を共有している。
- ・朝礼・終礼で職員に周知している。
- ・小規模園のため、園児全体に職員の目が行き届いているので、事故が起きた際もその場で共有できる。
- ・事故が発生したときは、職員室に報告し、状況把握をする。
- ・けが人がいる場合は処置し、状態によっては保護者に連絡し、病院に連れていく。

（教職員間での共有）

- ・担任から、事故報告書を提出させている。
- ・事故後、すぐに話し合いの場を持つ。
- ・事故の記録を詳しく残し、職員間で情報共有し、対策について話し合う。
- ・保育後の打ち合わせで、全職員に周知・確認し、今後の対策を考え、全職員で共通理解を図る。
- ・事故発生後、すぐに主任会（10名程度）で事故防止の対策を考え、その結果を当日、遅くとも翌日には全職員に共有し、理解を図っている。
- ・他園での事故情報は、災害発生状況等、その災害における周辺情報を含め、各自、ニュースやインターネットで情報収集を行っている。自園で似たような状況や災害のきっかけとなったもの等は無いか検討し、類似災害とならないよう教職員間で情報共有し、教育委員会からの情報も含めながら指導の参考としている。

（その他・予防策）

- ・入園時に健康調査書にて既往症などを把握しており、気を付けたほうがよい事項についても入園面接時に情報収集している。（アレルギーやかかりつけ医等）

イ 主に固定遊具における事故防止の観点から、特に保育中の安全管理について、留意している対策等があれば教えてください。

・見回りをしていますか ・遊具ごとに遊び方のルールを設けていますか

(見回り)

- ・随時、見回りをしている。
- ・毎朝夕、複数の職員で行っている。
- ・保育中は、必ず園庭に教職員がいるようにし、幼児の遊びの様子を見守る。
- ・園児が使用している時には、固定遊具のそばで職員、補助職員が常に見守りをしている。
- ・登園後の朝の自由時間は補助教諭のみ、お昼は担任も加わり、一緒に遊びながら見守っている。

(遊び方のルール)

- ・満3歳までは、ジャングルジムを使用させない。
- ・満3歳までは、鉄棒・すべり台は先生の見守りの下で使用する。
- ・アスレティックは、上り下りする方向を決めている。
- ・遊び方のルールを設け、ルールを確認しながらその都度見直しをしている。
- ・高い所では押さない、ぶらんこの順番は柵の外で待つ等、それぞれの固定遊具に応じたルールを設定する。
- ・危険な行為があった時は、その都度幼児にルールを確認するとともに、職員にも周知し、今後の対策を考える。
- ・遊具全般について、「順番を守る」「安全な距離を保って待つ」、「高いところで押し合わない」、「しっかり掴まる」等の基本的なルールを徹底して指導している。
- ・遊具使用時に危険が無いよう、服装について入園のしおりに掲載している。

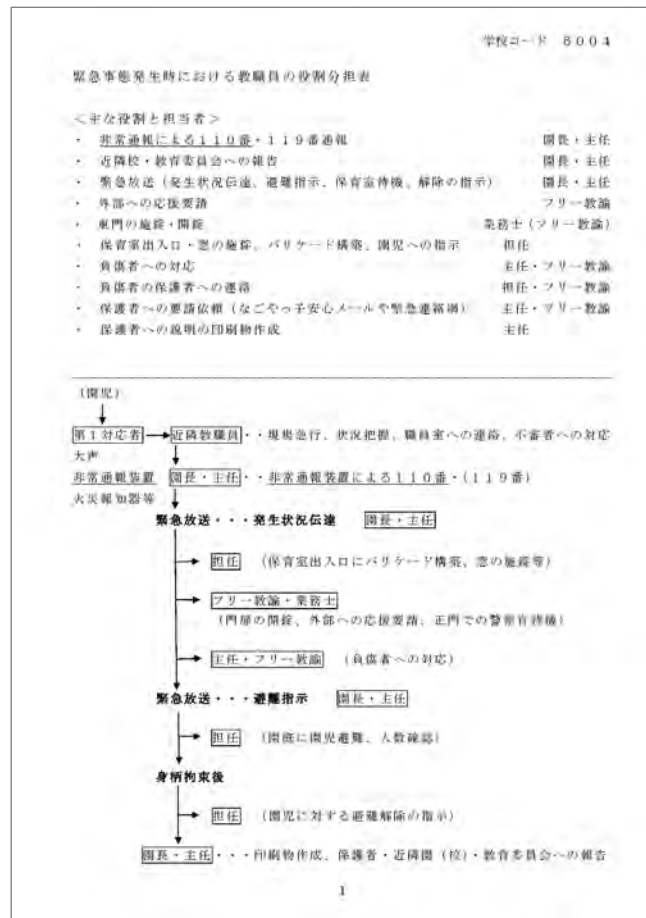
(4) 安全に関する組織活動

① 園内の協力体制（学校安全全般）

ア 校務分掌、危険等発生時対処要領（危機管理マニュアル）等において、危険等発生時の教職員の役割分担と責任が明確になっていますか。

- ・明確になっている。(3件)
- ・緊急連絡体制表は、職員室内に掲示している。
- ・安全全般については、園長と教務主任が担当している。
- ・固定遊具の点検は、男性職員が担当している。
- ・固定遊具は主に男性職員が担当しているが、全職員が責任を持って目視等の事故防止に取り組んでいる。
- ・危機管理マニュアルにおいて、危険等発生時の教職員の役割分担や責任は明確になっている。
- ・安全の係（担当者）があり、教職員へ日常点検についての声掛けを行う。
- ・危険発生時には、全体状況把握と対外連絡は園長、園内での指示は主任が行う。
- ・固定遊具に特化した体制は無い。

＜提供資料：教職員の役割分担表＞



イ 学校安全に対して、職員会議、学年会など組織的な協力体制が確立していますか。

- ・朝礼・終礼で共通理解を図る。
- ・年度初めに、危機管理について共通理解を行っている。
- ・保健安全計画を作成し、全職員で読み合わせ、確認している。
- ・月に1回主任会（10名程度）を開き、決定事項を全職員に周知している。
- ・職員の終礼時、及び1週間ごとの年次担任の打ち合わせで、情報交換を行っている。
- ・危険な事が発生した場合、危険な状況があった時には、日々の打ち合わせの際に全職員に知らせ、今後について話し合っている。
- ・事故やけがが発生した際は、その都度情報共有し、対策について話し合っている。
- ・発達段階に応じた指導ができるよう、ルールを確認しながら連携・協力している。

ウ 実際に事故が発生した際、危機管理マニュアルに沿った役割分担で事故対応に当たれましたか。改善点等はありませんか。

- ・危機管理マニュアルに沿った役割分担で、事故対応に当たることができた。（3件）
- ・近隣の小学校と、医療機関の相談等について連携を取った。
- ・マニュアルの改善点として、園庭解放の際の事故や、園外での事故への対応、行動の仕方について追記するべきだと考えている。

② 教職員の共通理解と研修

(※固定遊具を中心に学校安全全般について)

ア 事故発生の未然防止や事故発生に備えた事前の取組として、安全に関する知識・技能を向上させるための校内研修は計画的に実施していますか。

研修を行っている場合、どんな研修をしていますか。また、固定遊具に関する研修は行っていますか。

(校内研修)

- ・ 2か月に1度、保育のあり方、かけっこ体操の安全性について、学年ごとに研修を行っている。
- ・ 年に2回外部講師（幼児活動研究会等）を招いて研修を行っている。子供を守り育てるための研修で、その中に安全についての内容も含まれている。園の総合研修として実施している。
- ・ 年度初めに、子供達への固定遊具の使い方の指導方法を話し合った。
- ・ 幼児の体力づくりの研修の際、固定遊具の遊び方についても行った。
- ・ 朝の職員研修の際、ニュース、新聞等の事例を元に協議を行っている。
- ・ 固定遊具を新たに使用する際や指導計画に応じて取り入れる際に、予想される幼児の動きを出し合い、それについて話し合う等を現職教育として位置付けている。また、その都度、職員で使用方法やルール等を再確認している。

(外部研修)

- ・ 私立幼稚園連合会主催の研修会で安全に関する研修があれば、出席職員の復命により情報を共有している。

(行っていない)

- ・ 固定遊具に特化した研修は行っていない。

イ 教育委員会等が行う教職員研修や外部研修の中で、固定遊具（安全点検の実施を含む）に関する研修を受けたことがある教職員はいますか。

(いる)

- ・ 養護教諭が受けた。
- ・ 市立幼稚園の教員が集まって、固定遊具での遊び方の研修を行った。（教育委員会等による実施はない。）

(いない)

- ・ いない。（2件。うち1件は「固定遊具に関する研修自体がない。」と回答）
- ・ 体育や遊び方等、教育に関する専門家の指導を受けることができる「指導員訪問制度」という市の制度があり、その指導の中で遊具の気を付ける点等を聞く機会はあるが、固定遊具に特化した研修は無いため、固定遊具に関する研修を受けたことがある教職員はいない。

③家庭地域との連携

(※固定遊具を中心に学校安全全般について)

ア 「園だより」等を活用し、家庭や地域でも安全に関する取組が行われるよう、指導依頼や情報提供などを行っています。

(「園だより」等の活用)

- ・「保健だより」を活用し、情報を発信している。
- ・降園後は、園庭で遊ばずにすぐに帰宅するよう、「園だより」で保護者へ周知している。
- ・けがをした状況等、保護者に周知すべきことがある場合は「クラスだより」で周知している。
- ・園庭開放(降園時の一定時間)の際に気を付けてもらいたい点を「園だより」で知らせると共に、保護者に必ず幼児の近くで見守るよう依頼している。
- ・ハンカチやティッシュを入れる移動ポケットや紐タイプのポシェットは、遊具に引っかかる恐れがあるので持たせないよう「園だより」で周知している。
- ・他の園での災害がニュースになった際は、「園だより」で家庭でも注意するよう周知している。
- ・固定遊具に特化せずに、長期休暇前は家での遊び方等、安全に過ごせるよう「園だより」で周知している。

(その他)

- ・遊具で遊ぶ時は、身に着けているもの(かばん、水筒等)は置いてから遊ぶよう保護者に依頼している。

(なし)

- ・地域への発信は、あまりない。

<提供資料：園だより>

2年度 入園にあたっての準備などについて (入園のしおりの一部抜粋)

「入園にしおり」は入園説明会においてあらかじめ配付します。

<服装について>

- 登降園には、基準服(他園での基準服も可)・クラスカラーの帽子を着用する。
- 履物は、活動に適した履物にする。(スリッパが望ましい・サンダルは不可)
- 上靴は、パレーシューズにする。(色は自由)
- 衣服は一人で着脱できるもの、汚れを気にしなくていいもの、活動しやすいものを着用する。
 - ・吊りスボン・サスペンダー・ベルト・フードつき・丈の長いスカートは避けます。
 - ・女児もスボンやキュロットスカートが活動しやすいです。

<所持品について>

- 通園かばん、カラー帽子、上靴、上靴入れ、弁当袋、弁当箱、箸、箸箱、ランチョンマット、コップ、コップ入れ、歯ブラシ(6月初旬に実施する歯磨き指導後)スモック(製作などに使用)、着替え、ハンドタオルを各自準備する。
 - ・所持品や衣類にはすべてひらがなで名前を記入する。
 - ・道具箱の中に入れる、はさみ・はさみキャップ・パス(1本ずつ)
 - ・粘土ケース・粘土板にもすべて名前を記入する。『用品の記名について』を参照

<お弁当について>

- 弁当の時間は、子どもたちにとって楽しいひとときです。おうちの方の心のこもったおいしい弁当を楽しく食べたいと思っています。
 - ・弁当の時間は、だいたい11:30~12:10頃までです。
 - ・食事時間については個人差がありますが、ご家庭でも30分くらいを目安に食べ終えるようにしましょう。
 - ・「全部食べた」という満足感ももてるような弁当の量、また30分くらいで食べ終えるような量にしましょう。弁当が残っているようでしたら、量を少し減らして様子を見ましょう。
 - ・食事であることを意識し、おかずとご飯を半々位にして栄養のバランスや色どりを考えるようにしましょう。果物を多く入れすぎずおかずが少なくならないように気をつけましょう。パンにする場合も必ず弁当箱に入れてください。
 - ・野菜のおかずが少ない傾向があります。好みもあると思いますが健康のためにも野菜のおかずを工夫しましょう。
 - ・ふりかけは小袋を持たせず直接ご飯にかけてください。
 - ・また、ゼリーは菓子類になるのでいれないようにしましょう。
 - ・4歳児は、4月3週目から弁当開始予定です。
 - ・日にちは4月にお知らせします。

主 菜 主 食
副 菜 (ご飯・パン)

主食が弁当箱の1/2の量、あとの1/2を3等分し、1/3に主食2/3に副菜を入れます。

イ 固定遊具の安全な遊び方について、家庭向けに情報発信していることはありますか。

(ある)

- ・ホームページで、逆上がりの安全な手の握り方について情報発信している。
- ・園庭開放の際の遊具の使い方について、登降園時の掲示板で発信している。
- ・子供達に行った安全指導の内容について発信し、家庭でも公園等で遊ぶ際の留意点を伝えている。
- ・家庭に向けて、公園に一人で行かせない(＝幼児と共に出掛け、見守る)、遊具で遊ぶ時は、身に着けているものを置いてから遊ぶ等の注意点を情報発信している。

(なし)

- ・特にない。

(5) 固定遊具における特徴的な対応事例

ア 自園に限らず、固定遊具の事故等を踏まえ、設置された固定遊具自体に、または固定遊具の利用ルール等に改善を加えた点があれば教えてください。

(鉄棒)

- ・鉄棒から落ちて腕を骨折する事故が起こった。鉄棒に目立った不具合はなかったが、鉄製からステンレス製のものに一式取り替えるとともに、鉄棒の下に敷いているマットを厚くした。
- ・鉄棒の上に乗らない、鉄棒をする時、親指は下に他の4本指は上にしてしっかり持つよう指導を徹底した。
- ・鉄棒の下に、蛍光色のオレンジマットを敷いた。
- ・鉄棒の支柱に緩衝材を巻いた。
- ・鉄棒の前にブランターとベンチを置いた。

(ぶらんこ)

- ・年少児用と年中・年長児用で分けている(年少児用は鎖にカバーを付けており、座面も幅広のもの)。

(服装・持ち物)

- ・固定遊具に紐等が絡まり、首が絞められるような事故が起きないように、縄跳びを持って遊具に近付かない、通園カバンを身に着けたまま遊具で遊ばないように指導している。
- ・他園での事故を踏まえ、登園の服装について「入園にあたって」にお知らせしている。

(周辺環境)

- ・樹木の剪定をした。

イ 近年、新たに設置された固定遊具がある場合、安全面に配慮した特徴的なポイント等があれば教えてください。

- ・アスレティック：丸いため安全とは思われるものの、むき出しのボルトがあったため、念のためプラスチックカバーを付けた。

(6) その他

日常的に、全国における遊具事故をはじめとした事故等に関する情報（点検の仕方等を含む）はどのように入手していますか。

- ・ 外部研修の際に情報を得ている。
- ・ テレビやインターネットを通して情報収集している。
- ・ 大きな事故はテレビのニュース等から入手し、職員間で情報を共有している。
- ・ ニュースや新聞から入手している。
- ・ 新聞の切り抜き等で共有している。（子供達に投げかけ、一緒に考える取組も行う。）
- ・ JSC からの配布物や教育委員会からの文書から情報を得ている。

4 幼保連携型認定こども園・保育所等の固定遊具の事故防止対策の実状

(1) 固定遊具における遊具遊び及び遊具事故の現状

ア 最近2～3年間の傾向として、どんな固定遊具で、どんなけがをする児童が多いと感じますか。

- ・ 登り棒：尻もちをつく。
- ・ すべり台：尻もちをつく、突っかかって転ぶ。

イ どんな固定遊具に人気がありますか。

- ・ 登り棒
- ・ すべり台

ウ 固定遊具でどんな遊び方をしていることが多いですか。

- ・ 友達同士でルールを守りながら、追いかっこ等をしている。

エ 過去10年以内に、園の敷地から撤去した固定遊具はありますか。
あれば、遊具名と撤去時期、撤去理由を教えてください。

- ・ 該当なし

(2) 園における安全教育

① 安全教育の年間指導計画（安全教育の目標）

ア 固定遊具の正しい使い方、安全な使い方について、児童等にいつ、どのように教えるか、あらかじめ計画（年間の指導計画）を立てて実施していますか。

- ・ 幼児クラス（3～5歳）には、年1回4月の進級時に幼児組全員で遊具の安全な使い方や危険な使い方について話をしている。3歳未満児クラスには、使用前に保育士が子供達に注意を促している。
- ・ 年度途中入園の子供にはその都度、説明を行っている。

イ 計画を立てて実施している場合は、計画作成に当たりどんな点に留意されていますか。

- ・ 該当なし

② 安全教育における対策事例

- ア 固定遊具の安全（正しい使い方、安全な使い方等）について、児童等に対し、どのような教育を行っていますか。事故防止のため、特に力を入れて取り組んでいること等、具体的な指導例等ありましたら教えてください。

（遊具の使い方） ・滑り台では、上に友達がいるときは下から登らないことを指導している。

（ルール） ・危険な遊びやルールを守れていない子供がいたら、その都度、注意をしている。

（指導法） ・園庭での保育の時間に、けがに繋がらないように遊ぶには、どのような使い方が良いのかを実践を通して指導している。

（３）園における安全管理

① 園環境の安全管理における対策事例（対物管理）

（※固定遊具を中心に学校安全全般について）

- ア 貴園における安全点検は、どのくらいの頻度でどのような点検を行っていますか。また、固定遊具に対する安全点検についても頻度・内容を教えてください。

・毎日、職員が保育時に点検を行い、点検表に記入している。細かな部分については、用務員が週に１回定期点検を行い、点検表に記入している。

- イ 点検の結果、固定遊具の不具合、破損等が見つかった場合、どのように改善・修繕を実施していますか。

・ほとんどは、用務員がすぐに修理して対応しているが、大掛かりになる場合は、必要に応じて業者に修理を依頼することもある。

- ウ 固定遊具の安全点検をする上で、難しい点、困っている点等がありますか。

（見えない部分）

・木材は、腐食がすぐに分かるので対応できるが、ロープ等の耐久年数が分かりにくいものの点検が難しい。

<提供資料：保育園の安全点検表>

② 園生活の安全管理における対策事例（対人管理）

（※固定遊具を中心に学校安全全般について）

ア 自園で発生した事故の情報は、どのように把握・管理していますか。また、事故の情報等をどのようにして教職員間で共有していますか。

（事故の情報の把握）

- ・自園で発生した事故については、すぐに園長まで報告する。

（教職員間での共有）

- ・事故について職員会議で取り上げ、どのような状況で事故が起きたのか、どのような対応が必要だったか、今後どのように対応していくかを職員同士で話し合い、書面で記録を残している。
- ・年度を超えても、どのような事故がどのような理由で起こったかを職員会議で園長から話しをすることで、事故が繰り返し起こらないように職員に注意を促す。

イ 主に固定遊具における事故防止の観点から、特に保育中の安全管理について、留意している対策等があれば教えてください。

- ・見回りをしていますか
- ・遊具ごとに遊び方のルールを設けていますか

（見回り）

- ・職員は、全体が見渡せる場所に配置すること、また登り棒やすべり台など、事故が起こりやすい固定遊具には必ず職員をつけて対応している。

（遊び方のルール）

- ・ぶらんこは、使用する際のみ座る部分を下ろして使用している。
- ・職員が少ない時には、使用して良い遊具を決めて、子供達を遊ばせている。
- ・園庭での保育の時間帯を3歳未満児と3歳以上で分け、衝突等の事故が起こらないようにしている。

<写真：ぶらんこの安全管理>



(4) 安全に関する組織活動

① 園内の協力体制（学校安全全般）

ア 校務分掌、危険等発生時対処要領（危機管理マニュアル）等において、危険等発生時の教職員の役割分担と責任が明確になっていますか。

- ・役割分担と責任は、明確になっている。
- ・緊急時対応は、事象別の対応フローを作成し、ラミネート加工し、職員が常に見られるようにしている。

イ 学校安全に対して、職員会議、学年会など組織的な協力体制が確立していますか。

- ・確立している。自園だけでなく、関連園とも情報交換の機会を設け、学校安全等について話し合っている。

ウ 実際に事故が発生した際、危機管理マニュアルに沿った役割分担で事故対応に当たれましたか。改善点等はありませんか。

- ・マニュアルに沿った役割分担で事故対応に当たれた。職員が子供から目を離した際に起きてしまった事故であったため、園庭での保育時に、子どもから目を離さないように全員で注意することを心がけている。

② 教職員の共通理解と研修（※固定遊具を中心に学校安全全般について）

ア 事故発生の未然防止や事故発生に備えた事前の取組として、安全に関する知識・技能を向上させるための校内研修は計画的に実施していますか。

研修を行っている場合、どんな研修をしていますか。また、固定遊具に関する研修は行っていますか。

- ・校内研修は行っていないが、事故の未然防止のための話し合いは職員会議等で行っている。

イ 教育委員会等が行う教職員研修や外部研修の中で、固定遊具（安全点検の実施を含む）に関する研修を受けたことがある教職員はいますか。

- ・市が行う研修会に参加する等、外部の研修を受ける機会を積極的に作っているが、固定遊具に係る研修は受けたことが無い。

③ 家庭地域との連携（※固定遊具を中心に学校安全全般について）

ア 「園だより」等を活用し、家庭や地域でも安全に関する取組が行われるよう、指導依頼や情報提供などを行っていますか。

- ・「園だより」を活用し、家庭に指導依頼している。

イ 固定遊具の安全な遊び方について、家庭向けに情報発信していることはありますか。

- ・引き渡し後、親同士が話している等の際に、暗くなった園庭で遊んでいる子供から目を離さないように注意を促している。

(5) 固定遊具における特徴的な対応事例

ア 自園に限らず、固定遊具の事故等を踏まえ、設置された固定遊具自体に、または固定遊具の利用ルール等に改善を加えた点があれば教えてください。

(ぶらんこ)

- ・事故を踏まえてではないが、使用しない時は座る部分を上に上げ、保育士の見守りができる時以外は使用できないようにしている。

(その他)

- ・近年発生した事故を振り返ると、園庭から戻る際、職員が子供達を室内に誘導している中で、最後まで園庭で遊んでいた子供から一瞬目を離した際に起きていた。事故後は、一人でも子供が園庭にいる間は園庭全体を見守る職員を配置し、同じような事故が起こらないよう周知している。

イ 近年、新たに設置された固定遊具がある場合、安全面に配慮した特徴的なポイント等があれば教えてください。

- ・新たに設置された遊具はないが、数年前に固定遊具の設置面に衝撃吸収用のマットを敷いた。

(6) その他

日常的に、全国における遊具事故をはじめとした事故等に関する情報（点検の仕方等を含む）はどのように入手していますか。

- ・インターネットや関連園、専門家からなるグループ等から入手している。

5 新型コロナウイルス感染症防止にむけた取組事例の紹介

令和2年に劇的な感染拡大を見せた新型コロナウイルス感染症については、国内外の感染状況を見据えると、今後も長期的な対応が求められることが見込まれる。

本調査研究における実状調査先の中から、感染症拡大防止にむけ、遊具をはじめ学校（園）内の環境を整備する取組を行っている幼稚園の協力を得て、その取組を紹介する。

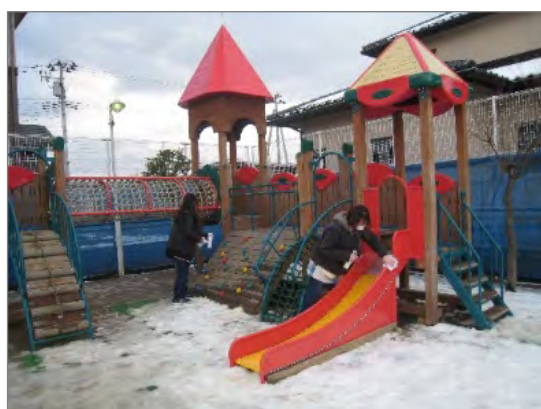
（１）取組のきっかけとその内容

園児の安全と保護者の安心のために、アルコール消毒液による園内の消毒を行うようになった。街中の公園にある固定遊具は消毒されていないにも関わらず、公園の固定遊具により感染したという事例は聞かないので、固定遊具を消毒することで感染症防止にどれほどの効果があるかは不明だが、消毒を行うことによって少しでも意識を高められたら、と考え取り組んでいる。



（２）具体的な取組（対物管理と対人管理）

固定遊具については1日1回、園児が降園した後、職員2名で外周りを消毒する際、



併せて消毒している。作業後には、消毒済であることが分かるように柵を立てている。

（消毒作業や園児への新型コロナウイルス感染症対策の指導に当たっては、文部科学省の「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル（https://www.mext.go.jp/content/20201203-mxt_kouhou01-00004520_01.pdf）を参考にしてている。）

固定遊具のみならず、保育室内のテーブルや椅子、遊具（ブロックやぬいぐるみ等）を昼食時や降園後等、必要に応じてこまめに消毒するようにしている。

絵本やカードゲーム、ぬいぐるみ等、液だれするものは、布に消毒液を吹きかけて拭くようにしている。また職員は、園児の鼻をかく手伝いをした時や排泄の援助をした時、すぐに手を洗うよう気を付けている。



新型コロナウイルス感染症対策に伴って、遊具での遊び方の指導にも変化があった。具体的には、密にならないよう注意を促す取組を行っている。その他、子供達に向けては、手洗い時の指導（手洗い場が密にならないようテープで足元に目印を付ける等）も行うようになった。

また、感染症対策について、職員の終礼時や1週間ごとの年次担任の打合せ等で都度情報を共有することを心掛けている。

さらに保護者には、園だよりと共に市作成のチラシを配布する等して、感染症への注意喚起を行っている。特に園児や保護者が濃厚接触者となり PCR 検査をする際は、園に連絡を入れるようにも周知している。

感染者発生時の対応については、前述の文部科学省の衛生管理マニュアル以外に、県の私立幼稚園連合会、市教育委員会、他県で作成している資料等を参考にするようにしている。実際の発生時には、園と保護者が連携するとともに、速やかに園内の消毒が出来るように業者等も検討している。

(3) 感染症予防の取組の難しさ

実際に取り組んでみると、園内全ての消毒作業自体がかなり体力的に負担の大きい作業である。園児が触る所を重点的に、と考えるが、際限が無いとも感じる。また、遊具の形状から、ジャングルジム等は1本ずつ拭くこと、砂や雪が入っている箇所はそれらを取り除いてから消毒しなければならないこと等が大変である。



作業負荷の面以外に困難を感じている点は、園児達と接する場面においてである。幼稚園では「人との関わり方」や「力を合わせる楽しさ」等を教えるが、新型コロナウイルス感染症対策として「近づきすぎてはいけない」ことや、従来であれば肌と肌を触れ合い打ち解ける場面で「タッチしない」等の指導を行わなくてはならないことから、日々の活動の際に苦勞している。また、マスクを着用することにより、教員・園児共にお互いの表情が分かり辛い点についても危惧している。フェイスシールドや透明マスクの検討もしたが、マスクとの併用が推奨されているようであり、試行錯誤の日々である。

(4) 感染症予防の取組による気づき、良かったこと

遊具の消毒に取り組む中で、塗装の剥げ等、小さなことに以前より早く気付くことが出来るようになったと感じている。

また、園児自身が手洗いの重要性や飛沫による感染等、今まで教えたことが無かった言葉を知り、それを意識出来るようになったことは感染症予防の取組の良い効果として現れていると思う。最近では、食事中に大声で話をしている場面で、園児同士で「食べてから話そう」と注意し合えるようになっている。園では、毎年秋頃から、風邪や胃腸炎等が増えるものだったが、今年はそういったことが起きていない。体調不良の際は無理して登園させないように保護者に依頼したこともあり、結果的に様々な感染症予防に繋がったと感じている。

（５）感染症と共生する未来に向けて

新型コロナウイルス感染症については、今後も長期的な対応が求められると考えている。幼稚園では、園児と生活をしなければいけないため、どのようなときに感染するのが明らかになれば、具体的な対応を検討することが可能となり、安心して園児と接することが出来るようになるので、そういった情報の提供を望んでいる。

例えば、毎年行ってきた年長児の小学校訪問等の行事も、「感染症予防のため」という理由でただ中止になってしまうことは、現状ではやむを得ないこととは言え、園児自身が「経験することにより成長できる機会」を減らしてしまうことでもあるので、的確な判断基準により、出来る限り子供の成長の機会を損なわずに、感染症防止も両立できるように取り組んで行きたいと考えている。



冒頭にも記載したが、新型コロナウイルス感染症への対応には、今後も継続的かつ粘り強く取り組んでいく必要があるところである。最新の知見が日々更新され、柔軟な対応を求められるこの未曾有の困難の中でも、学校（園）においては、持続的に児童生徒等の教育を受ける権利を保障していくため、また、安心安全な保育環境を維持していくため、感染及びその拡大のリスクを可能な限り低減した上で、学校（園）運営を継続していく必要がある。

今回紹介させて頂いた前向きな取組をはじめ、既に現在、限られた時間の中で最大限の取組を実践されている学校（園）現場の皆様に最大の敬意を表し、新型コロナウイルス感染症の早期の収束を念じるとともに、引き続き、学校（園）現場への有益な情報発信を行うことについて、決意を新たにするものである。